仙台市文化財調査報告書第57集

年　報　4

昭　和　57　年　度

昭　和　58　年　3　月

仙　台　市　教　育　委　員　会

仙台市文化財調査報告書第57集

年　報　4

昭　和　57　年　度

昭　和　58　年　3　月

仙　台　市　教　育　委　員　会

序　　文

市民の文化財への関心が、一段と高まってきているのを感じた年でした。郡山遺跡の現地説明会（９月23日実施）では、約550人の方々が来跡され、掘立柱建物跡や暗文土器をみて、７～８世紀頃の郡山地区を脳裏に想い浮かべたのではないでしょうか。また、古建築のみかたについての文化財講座（３月12、19日、26日実施）では、受講希望者が200名もあり、土曜日の午後にもかかわらず、熱心に受講されました。市民の方々が、それぞれの立場で、自己の研鑽を深められていることを痛感させられました。

このたび、仙台市教育委員会作製の「仙台市の文化財分布図」を改訂し発行しました。今まで行なわれた各種の調査をもとにして、加除訂正を行ないました。市民の皆様に広く活用していただければと思います。文化財とは、「先人の築いた智恵の証(あか)し」ともいえます。その智恵を、我々の生活に生かすことが、仙台市が考えている“豊かで個性と魅力のある新しい杜の都”の基盤づくりにつながるものと考えます。

本書は、1982年度に行なった仙台市教育委員会の文化財保護行政の事業報告及び小規模開発に伴う発掘調査報告、そして、美術工芸関係の調査報告をまとめたものです。これをまとめるにあたって、市民各位の多大の御支援があったことに対して、感謝申し上げます。今後とも、文化財行政に対しての御協力、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

昭和58年３月

仙台市教育委員会

教育長　藤　井　　黎

目　　次

序
目　次
例　言
Ⅰ．事業報告
1．管理関係……1
2．調査関係……5
Ⅱ．調査報告
1．南小泉遺跡……14
2．泉崎浦遺跡……17
3．西台畑遺跡……20
4．柳生台畑遺跡……26
5．仏像彫刻緊急実態調査略報Ⅲ……27
6．仙台市指定文化財候補物件調査報告Ⅰ……35
Ⅲ．彙　　報……62

例　　言

1．本書は、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係・文化財調査係が昭和57年度に行なった文化財の調査、文化財保護思想の啓蒙・普及活動、文化財保護管理に関する各種事業についての年度報告書である。

2．調査報告のうち埋蔵文化財関係は、昭和57年度に実施した発掘調査のうち独自に概報もしくは報告書にまとめるに至らなかった小規模な発掘調査4件の概報を掲載した。

3．「仏像彫刻緊急実態調査略報Ⅲ」については、仏像彫刻の実態調査終了後に本報告書を刊行する計画である。

4．「仙台市指定文化財候補物件調査報告」は、仙台市文化財保護委員会委員の専門の先生方に調査いただいた調査報告であり、昭和57年度は建築部門を佐藤巧同委員会副委員長に、彫刻部門を故亀田孜同委員会委員に調査を依頼して報告をいただいたものである。

5．本書の編集には文化財管理係渡辺洋一、文化財調査係佐藤隆・加藤正範があたったが、係員全員の協力をあおいだ。

6．調査報告の執筆にあたっては、Ⅱ－1を加藤正範、Ⅱ－2を佐藤隆、Ⅱ－3を佐藤甲二、Ⅱ－4を高橋勝也、Ⅱ－5を渡辺洋一が担当した。

Ⅰ．事業報告

1．管理関係

(1) 一般文化財

1）文化財保護委員会

本年11月30日をもって第10期の仙台市文化財保護委員会委員の任期が満了となり、翌12月1日付で第11期仙台市文化財保護委員会が発足した。なお、現職の委員のうち、第10期をもって植物担当の木村有香委員、考古担当の後藤勝彦委員が勇退され、民俗担当の岩崎敏夫委員ほか5名の方々が仙台市文化財保護委員として新たに委嘱された。(名簿は彙報に掲載)

また、これに先立ち本年は8月4日に三原良吉委員(民俗担当)、12月5日に亀田孜委員が逝去された。

2）文化財パンフレット

今年度は昨年に引きつづき彫刻編の第2回として「仙台市の仏像彫刻II(菩薩部Ⅰ)」として、在仙寺院に所蔵されている菩薩部像の紹介を行なった。

また第1集「仙台のあゆみと文化財」、第2集「埋もれた仙台の歴史」の再版を合せて行なった。

3）説明板・標柱の設置

今年度は成覚寺山門・枡江遺跡・山田上ノ台遺跡(二基)・原町道知べ石の説明板5基と、枡江遺跡・山田上ノ台遺跡(二基)・大年寺惣門・十三塚の標柱5基の設置を行なった。

4）辻標の設置

市制施行88周年記念事業の一環として由緒ある町名・通名の辻標を次のとおり設置した。

東北電力日新寮角（花壇川前丁・琵琶首新丁)、東北大学歯学部角（北六番丁・木町通)、八幡町四丁目エンド一前（江戸町・坊主町)、穀町保育園前（穀町・畳屋町)

昭和52年以降の辻標設置総数は34基を数える。

5）文化財めぐり

仙台市内にある文化財の見学を通じて市民の文化財に対する認識を深め、文化財の保護思想の普及をはかるため、下記の3回（大人対象2回、小供対象1回）の文化財めぐりを実施した。

対　象	大　人　（第1回）	子　　供	大　人　（第2回）
月　日	昭57．6．13．(日)	昭57．8．20．(金)	昭57．11．7．(日)
コース	河原町・茂ヶ崎・向山方面	仙台城跡　(植物園)	荒町・南鍛冶町方面
講　師	吉　岡　一　男 (宮城県立図書館奉仕課長)	渡　辺　洋　一 成　瀬　　茂 佐　藤　　裕	逸　見　英　夫 (郷土史家)

6）文化財講座

下記により２回の文化財講座を実施した。

回	テーマ		講師	日	時
6	キリシタンの歴史と文化		浜田直嗣（仙台市博物館写芸室長）	昭57.11.11(木) 18(木) 25(木)	6：00 ～8：00PM
7	古建築の見方	概説	佐藤　巧（仙台市文化財保護委員会副委員長 東北大学工学部教授）	昭58.3.12(土)	2：00 ～4：00PM
		仙台市の社寺建築	阿部和彦（東北大学工学部助手）	3.19(土)	〃
		仙台市の洋風建築	飯淵康一（　〃　）	3.26(土)	〃

7）文化財分布調査

昨年に引きつづいて仙台市内にある文化財の基本台帳整備のための確認調査を実施した。

8）仏像彫刻緊急実態調査

調査を始めて三年目に当る本年は、輪王寺以下６件154軀の調査を実施した。

9）近世社寺建築調査

文化庁建築物課の指導により、在仙の近世（桃山～江戸時代：1573～1867）建立の社寺建築65件の調査を実施した。

10）原始古代村建設事業

前期旧石器から縄文～奈良・平安までの一大複合遺跡である山田上ノ台遺跡を中心に構想されている原始古代村の建設を進めるため、他の遺跡との関係や街づくりとのつながりにも言及した基本構造素案を作成した。

11）指定文化財の維持管理

昭和57年８月に遠見塚古墳の除草掃掃と陸奥国分尼寺跡の樹木剪定、８・９月に各１回陸奥国分寺跡の樹木消毒を行なった。

12）仙台市文化財分布図の改訂

昭和47年度から実施して来た遺跡の範囲確認調査等の結果を総合し、昭和49年に「仙台の文化財分布図」(1/10,000・1/25,000の二種）と「仙台の文化財分布図収録物件一覧表」を作成した。さらにその後の調査の成果を追加し４回にわたって補正し、精度の高い地図の作成を期して来た。

しかし、その後の調査の実施件数の増加等で、現在の地図と一覧表が現状にそぐわない状況になって来た。よって本年度、地図と一覧表の大幅な改訂を実施した。

13）文化財防災施設保守点検

例年のとおり１月26日の文化財防災デーを中心として、前後に事前査察（昭58・1.19・20・21）と防災訓練（昭58.1.26）が行なわれた。

2）補助事業

(1) 県費補助事業

1）指定文化財管理事業

国指定文化財の大崎八幡神社・仙台東照宮・陸奥国分寺薬師堂の三件について、防災施設保守点検、小修理といった維持管理に対して補助が行なわれた。

2）無形文化財保存事業

宮城県指定無形文化財の館山甲午氏(平曲技術保持者)、甲田綏郎(精好仙台平技術保持者)、及び無形民俗文化財の大崎八幡神社能神楽保存会の二人一団体に技術保持に対する補助が行なわれた。

3）落合観音堂屋根葺替事業

宮城県指定有形文化財落合観音堂の萱葺屋根が老朽化したため、総工費6,300千円(内訳：宮城県補助金3,150千円、仙台市補助金1,575千円、所有者負担金1,575千円）をもって44年ぶに屋根の全面葺替を実施した。

(2) 国庫補助事業

1）史跡陸奥国分寺跡土地買上事業

目的：史跡陸奥国分寺跡の保存保護を図るため、史跡指定地の公有化を図る。

土地公有化の実績：土地の公有化は昭和43年度から着手し、昭和56年度末までに社寺所有地を中心に主要堂塔跡175,22.34㎡の公有化を終了している。

今年度の事業：今年度は僧房跡西隣と南大門跡南側・塔院前庭部に位置している民有地1,330.75㎡の公有化を実施した。

今後の事業予定：昭和58年度は、史跡指定地内全域の公有化を図ることにあるが、現実には諸条件がからむため困難が多く、現状変更に伴う買い取り請求の都度対応していくなど段階的にすすめざるを得ない。

2）史跡岩切城跡保存実施事業

岩切城跡の史跡指定：昭和57年８月23日付文部省告示第103号により史跡の指定をうけた。岩切城跡は仙台市岩切から利府町神谷沢の地に跨り、南北約 400 m、東西約500 mの天険の地を地域とする。

保存施設事業：史跡指定を受けて実施される事業で、今年度は史跡境界に境界標を埋設する工事を実施した。

3）史跡遠見塚古墳環境整備事業

今年度の環境整備事業総予算は800万円で、事業内容としては、環境整備に伴う予備調査（最終調査)―古墳主体部を主とした発掘調査―追加指定された土地境界へフェンスをまわす工事、

発掘調査箇所の埋め戻しと土留を兼ねた主体部北側への土盛り工事である。

4）郡山遺跡他の発掘調査事業

郡山遺跡緊急範囲確認調査

本年度は、昭和55年度から開始された緊急範囲確認調査5ヶ年計画の第3年次にあたり、推定方四町官衙域内の中央や、北寄りの地区を2,100㎡にわたって、第24次調査として実施した。また、推定方二町寺域の東外側地区の遺構確認調査を410㎡にわたって、第34次調査として実施した。調査は4月17日に開始し、12月24日に終了した。調査総面積は2,510㎡である。

第24次調査は推定方四町官衙の中心施設を明らかにすべく実施されたものであったが、この方四町官衙より古い時期に造営されたと考えられる官衙の遺構群を中心に、古墳時代中期から中世にわたる数多くの遺構・遺物が発見された。この古い官衙を構成するとみられる遺構群は掘立柱建物跡や柵木列・一本柱列などの区画施設であるが、造営の基準方向が真北線から30°前後東にずれており、真北線を基準方向とする方四町官衙の遺構群と明らかに区別される。遺構の重複関係から官衙が新・旧2つの時期に分けられることは明らかであるが、各々の出土遺物の観察によれば時間差があまりみられず、短期間の中で官衙の大規模な改変を行っていることが考えられる。また、在地の土器に混じって、関東・畿内地方と類似の土器類が多く出土し、特に畿内系の暗文土器は搬入品とみられ、官衙・寺院の造営にあたっては、関東・畿内の強い影響を受けていたことが考えられる。古い官衙の造営年代は7世紀後半代、新しい官衙（推定方四町官衙）は7世紀末から8世紀初頭頃とみられ、56年度の調査で明らかになった寺跡は、基準方向や出土遺物などからみて、新しい段階の官衙との同時性が考えられる。

第34次調査は寺域東外側の遺構確認を目的に実施されたものであるが、寺域内で実施された第15次調査と同様、古代の遺構検出面が重層を成し、下層遺構は推定寺域東外にまで広がっており、上層遺構も溝跡の方向からみて、古い段階の官衙に伴うことも考えられる。

仙台平野の遺跡群発掘調査

仙台平野に分布する遺跡群にかかる個人の小規模な開発（個人住宅の建築等）に伴う発掘調査を目的とした第2年次にあたる。今年度は、提出された発掘届の中から、砂押古墳、史跡陸奥国分寺跡（2件）、郡山遺跡（10件）の3遺跡13件について、発掘調査を実施した。発掘調査は4月から12月にかけて実施し、調査面積は、630㎡であった。調査の結果、砂押古墳は埴輪を伴っており、前方後円墳の可能性があること、史跡陸奥国分寺跡では昭和34年の調査で検出されていた版築と寺院西域を区画する施設に伴うと思われる溝が今回の調査区でも発見された。郡山遺跡の調査は、「郡山遺跡緊急範囲確認調査」と併行して進め、今後遺跡の範囲・性格を考えていくために、大きく寄与することができた。本事業は、年々増加しつつある遺跡の発掘届に対し、行政的に対処していくために貴重な事業であると言える。

2．調査関係

（昭和57年度）埋蔵文化財発掘調査事業概要

昭和57年度の発掘調査事業は、公共事業関連では高速鉄道南北線建設工事に伴う①下ノ内、②泉崎前、③泉崎浦、④中谷地、⑤鳥居原の各遺跡の調査、⑥広南病院建設工事に伴う西台畑遺跡の調査、⑦大型体育館建設工事に伴う山口遺跡の調査、⑧青葉学園建設工事に伴う南小泉遺跡の調査、⑨都市計画街路川内～南小泉線の建設工事に伴う南小泉遺跡の調査がある。

民間開発事業（個人開発を含む）では、⑩燕沢、⑪鴻ノ巣、⑫中田・畑中、⑬南小泉、⑭下ノ内浦の各遺跡の調査がある。

国庫補助事業の調査としては、⑮郡山遺跡の緊急範囲確認調査（５ヶ年計画の３年次）⑯遠見塚古墳の環境整備事業のための発掘調査、⑰仙台平野に分布する遺跡内の小規模開発（個人住宅の建設等）に関する調査があり、それぞれに調査成果をあげることができた。以下、それぞれの概略についてふれる。

①下の内遺跡では、縄文時代後期の複式炉と埋設土器を伴う竪穴住居跡、奈良～平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出。

②泉崎前遺跡、③泉崎浦遺跡、④中谷地遺跡、⑤鳥居原遺跡では、平安時代頃と考えられる水田の畦畔を検出。③泉崎浦遺跡については近世墓をも検出。

⑥西台畑遺跡では、10世紀以前の広瀬川の河道と考えるものを検出。弥生時代の遺構を想定したが検出されず、縄文土器片、土師器片を若干出土。

⑦山口遺跡では、縄文時代早期末、後期前葉、弥生時代の各遺物包含層、奈良～平安時代の住居跡と溝状遺構、平安～中世の水田跡をそれぞれ検出。

⑧南小泉遺跡－１では、平安時代の井戸跡、土壙、溝跡を検出。

⑨南小泉遺跡－２では、平安時代の竪穴住居跡２棟、溝多数、近世の井戸１基を検出。

⑩燕沢遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡15棟、掘立柱建物跡、土壙、溝跡を検出。特に平安時代の住居跡と掘立柱建物跡には規則性がみられる。仙台市内では初めての漆紙文書が出土。

⑪鴻ノ巣遺跡では、古墳時代の周溝墓、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土壙な検出。中世陶器、三筋壺、舟形木製品を出土。

⑫中田・畑中遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土壙を検出。四郎丸、袋原地区の発掘調査は今回が、初めてであった。

⑬南小泉遺跡－３では、古墳時代の竪穴住居跡５棟、溝跡、土壙を検出。土師器（南小泉式他）、弥生土器（枡形囲式他）を出土。

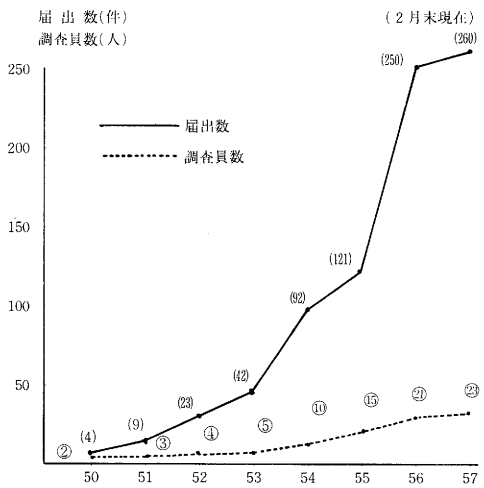
⑭下ノ内浦遺跡では、奈良～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡を検出。縄文土器片も出

土。今回の調査により、発見された遺跡である。

⑮郡山遺跡、⑯遠見塚古墳、⑰仙台平野の遺跡群についての概要は、前述の国庫補助事業の項目を参照。

以上のように、発掘調査の対象となった16遺跡は、我々に大きな成果をもたらしてくれました。その一方で、別表のように、発掘届の提出件数が増え続けています。できるだけ先人の残してくれた文化財を守っていこうとする考えで、で、これらの届に対処し、市民の皆さんの協力を得て、住宅建設等の際には地下に眠る遺跡を破壊しないように行政指導〔盛土、設計変更等〕を実施してきました。

発掘届出件数と調査員数の推移



昭和57年度発掘調査の概略

No.	遺跡名		時代	種類	対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	調査期間	担当職員	報告書	備考
①	下ノ内	高速鉄道関係	縄文～平安	集落跡	3,800	2,200	4/12～12/25	篠原、渡辺、鈴木		公共事業
②	泉崎前		弥生、平安	水田跡	1,700	600	9/1～12/11	吉岡		〃
③	泉崎浦		縄生～平安、江戸	集落、水田跡	2,200	1,200	9/13～1/27	吉岡、田中	56集	〃
④	中谷地		平安、中世	水田跡	6,000	1,850	8/25～12/23	主浜、高橋		〃
⑤	鳥居原		平安以前	水田跡	3,300	2,260	8/5～8/25、9/3～9/12	斎野、荒井		〃
⑥	西台畑		縄文、古墳以降		2,690	2,280	4/16～5/31	佐藤(甲)、柳沢	57集	〃
⑦	山口		縄文-弥生、奈良-中世	集落、水田跡	20,000	8,500	5/31～9/3	田中、主浜		〃
⑧	南小泉－1		平安	集落跡	540	540	4/12～5/20	渡部、佐藤(裕)	55集	〃
⑨	南小泉－2		平安	集落跡	1,000	550	5/22～8/12	結城、工藤	52集	〃
⑩	燕沢		縄文～平安	官衙？集落跡	16,000	3,800	8/2～12/4	渡部、佐藤(裕)		民間開発地
⑪	岩切鴻ノ巣		古墳、平安、中世	集落跡	2,530	993	4/12～6/31	青沼、長島	44集	〃
⑫	中田畑中		古墳、平安	集落跡	1,230	330	7/1～9/6	青沼、長島	53集	〃
⑬	南小泉－3		古墳中期	集落跡	205	205	12/4～12/24	早坂、佐藤(隆)、加藤	60集	〃
⑭	下ノ内浦		奈良～平安	集落跡	540	270	7/16～9/4	佐藤(隆)、柳沢、工藤	59集	〃
⑮	郡山		古墳末期～奈良	官衙、寺院跡	——	2,510	4/7～12/24	木村、成瀬、青沼、金森	46集	国庫補助
⑯	遠見塚古墳		古墳	古墳	260	260	10/4～12/10	結城、工藤	48集	〃
⑰	仙台平野の遺跡群		——	——	——	——	4/17～12/24	佐藤(隆)、加藤、金森	47集	〃

昭和57年度現状変更届出件数

昭和58年2月28日現在

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
1	史跡陸奥国分寺跡	木ノ下三丁目77－2	標柱設置	1㎡	立会い	寺院跡
2	〃	〃 79－32	住宅解体新築	59.81㎡	発掘調査	〃
3	〃	〃	〃	52.167㎡	〃	〃
4	〃	木ノ下二丁目7－47	物置及び自転車置場新改築並びに給排水管改良	73.5㎡	立会い	〃
5	〃	木ノ下二丁目，三丁目	上水道配水管布設	365㎡	発掘調査	〃
6	〃	木ノ下三丁目10，11，14，15番	舗装新設	573㎡	〃	〃

昭和57年度発掘届(通知)一覧

昭和58年2月28日現在

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
1	C－522 若宮前	岩切字若宮前11－22	住宅新築	149	立会い	館跡(中世)
2	C－224 鶴巻 I	福室字鶴巻一番地102－3	〃	89	〃	集落跡(平安時代)
3	C－102 南小泉	遠見塚二丁目125－10,125－19	〃	80	〃	集落跡(弥生～平安時代)
4	C－136 栗	柳生三丁目1－6	〃	110	〃	集落跡(弥生～平安時代)
5	C－420 国分尼寺跡	白萩町34－12先	上水道配水管布設	22	〃	寺院跡(平安時代)
6	C－501 仙台城	川内追廻無番地	解体新築	41	〃	城跡(南北朝～)
7	C－109 人来田	茂庭字人来田山142－13	住宅新築	84	〃	集落跡(縄文・弥生時代)
8	C－523 和田織部館	蒲生字屋敷6	住宅増築	26	〃	館跡(中世)
9	C－102 南小泉	古城三丁目3－2	解体新築	58	〃	集落跡(弥生～平安時代)
10	C－178 竹ノ内	蒲生字竹ノ内41	〃	97	〃	集落跡(平安時代？)
11	C－102 南小泉	遠見塚二丁目222－40	住宅新築	62	〃	集落跡(弥生～平安時代)
12	C－102 南小泉	南小泉字伊藤屋敷下52－8	解体新築	109	〃	集落跡(弥生～平安時代)
13	C－101 燕沢	鶴ヶ谷字東菖蒲沢29番2	住宅新築	104	〃	集落跡(縄文～平安時代)
14	C－507 今泉城	今泉字久保田85－3,85－9	〃	180	調査	館跡(中世)
15	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢34－10	〃	62	立会い	集落跡(縄文～平安時代)
16	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢34－5	〃	60	〃	集落跡(縄文～平安時代)
17	C－101 燕沢	岩切字山崎西186－10	物置新築	12	〃	集落跡(縄文～平安時代)
18	C－102 南小泉	遠見塚二丁目32－3	〃	24	〃	集落跡(弥生～平安時代)
19	C－102 南小泉	古城三丁目12－5	解体新築	57	〃	集落跡(弥生～平安時代)
20	C202 泉崎浦蒲	富沢字泉崎東一番86－8	住宅新築	199	〃	集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
21	C－102 南小泉	遠見塚二丁目295－5	住宅増築	87	〃	集落跡(弥生～平安時代)
22	C－224 鶴巻 I	福室字鶴巻一番86－8	車庫増築	15	〃	集落跡(平安時代)
23	C－109 人来田	茂庭字人来田山142－19	住宅新築	62	〃	集落跡(縄文～弥生時代)
24	C－104 郡山	郡山三丁目112－2	住宅増築	47	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
25	C－102 南小泉	古城三丁目1－19	〃	25	〃	集落跡(弥生～平安時代)
26	C－102 南小泉	遠見塚131番15・25	住宅新築	166	〃	集落跡(弥生～平安時代)
27	C－224 鶴巻 I	福室字鶴巻一番23－1	住宅増築	18	〃	集落跡(平安時代)
28	C－428 堤町窯跡B地点	堤町82番地	事務所増築	37	〃	窯跡(平安時代)
29	C－224 鶴巻 I	福室字鶴巻一番92－14	住宅増築	8	〃	集落跡(平安時代)
30	C－109 人来田	茂庭字人来田山142－16	住宅新築	64	〃	集落跡(縄文～弥生時代)
31	C－131 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢34－11	物置新築	19	〃	集落跡(縄文～平安時代)
32	C－104 郡山	郡山三丁目32番地の3	住宅増築	20	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
33	C－102 南小泉	遠見塚二丁目292－3	住宅新築	70	〃	集落跡(弥生～平安時代)
34	C－131 菖蒲沢	鶴ヶ谷字佐野原43－20他	倉庫建築	529	試掘済	集落跡(縄文～平安時代)
35	C－107 土手内窯跡	土手内一丁目22－3	物置及びよう壁の建築	51	立会い	窯跡(平安時代)
36	C－226 田子	田子字三反39－1	住宅建築	114	〃〃	集落跡(平安時代)
37	C－421 仙台東効条里跡	蒲町字土手下上18－4	〃	72	〃	奈良・平安行政区画跡
38	C－433 山口	富沢字山口60－8	共同住宅建築	118	〃	集落跡(縄文～平安時代)
39	C－125 新組	茂庭字新組12－6	住宅建築	102	〃	集落跡(縄文・古墳・平安時代)
40	C－109 人来田	茂庭字人来田山11－44	〃	87	〃	集落跡(縄文～弥生時代)
41	C－223 福田町	福田町二丁目1166－2	〃	87	〃	集落跡(平安時代)
42	C－507 今泉城	今泉字久保田95－18	〃	67	〃	館跡(中世)
43	C－223 福田町	福田町二丁目1093－3	〃	100	〃	集落跡(平安時代)
44	C－404 小田原長命坂窯跡	小松島三丁目35－3	住宅増築	28	〃	窯跡(平安時代)
45	C－132 上野山	鈎取字上野山地内	道路改良工事	340	試掘済	集落跡(縄文時代)
46	C－102 南小泉	南小泉字遠見塚西70－11	住宅建築	93	立会い	集落跡(弥生～平安時代)

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
47	大野田古墳群	大野田字竹松14－3	医院病棟建築	205	試掘済	古墳(古墳時代)
48	C－223 福田町	福田町二丁目1093－2	住宅建築	59	立会い	集落跡(平安時代
49	C－168 北屋敷	六丁目字屋敷62－28	〃	92	〃	集落跡(平安時代・中世・江戸)
50	C－434 荒巻杉添窯跡	堤町一丁目101－42	〃	42	〃	窯跡(平安時代)
51	C－432 荒巻杉添窯跡	堤町一丁目101－72	〃	82	〃	窯跡(平安時代)
52	C－501 仙台城	川内追廻無番地	〃	40	〃	城館跡(南北朝～)
53	C－503 茂ヶ崎城	長嶺	下水管布設	50	〃	館跡(中世)
54	C－102 南小泉	遠見塚二丁目33－5	住宅建築	81	〃	集落跡(弥生～平安時代)
55	C－507 今泉城	今泉字久保田97－4	〃	52	〃	館跡(中世)
56	C－501 仙台城	川内追廻無番地	解体新築	36	〃	城館跡(南北朝～)
57	C－175 西原	蒲生一丁目4－7	共同住宅建築	198	〃	集落跡(奈良・平安時代)
58	C－174 高柳B	中野字寺前98－3	倉庫及び事務所建築	161	〃	集落跡(奈良・平安時代・中世)
59	C－223 福田町	福田町二丁目1080－2	住宅建築	128	〃	集落跡(平安時代)
60	C－224 鶴巻I	福室字鶴巻1－68－2	〃	150	〃	集落跡(平安時代)
61	C－104 郡山	郡山三丁目51－35	解体新築	49	試掘	集落跡(古墳末～奈良時代
62	C－104 郡山	郡山六丁目227	住宅新築	75	立会い	集落跡(古墳末～奈良時代)
63	C－142 向山高裏	八木山緑町2－95	〃	58	〃	集落跡(縄文中期
64	C－102 南小泉	古城三丁目17－8	住宅増築	74	〃	集落跡(弥生～平安時代)
65	C－197 六反田	大野田字五反田1－2	住宅建築	99	〃	集落跡(縄文～平安時代、江戸時代)
66	C－197 六反田	大野田字五反田4外20筆	社宅建築	4,200	事前調査	集落跡(縄文～平安時代、江戸時代)
67	C－ 堤町窯跡	堤町二丁目80,82－1,82－2	住宅建築	224	立会い	窯跡(平安時代)
68	C－104 郡山	郡山三丁目3－18	住宅増築	33	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
69	C－522 和田屋敷跡	蒲生字二本木127－8	倉庫建築	331	試掘済	館跡(中世)
70	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅建築	39	立会い	城館跡(南北朝～江戸)
71	C－102 南小泉	南小泉字伊藤屋敷52－9	旅館建築	417	試掘済	集落跡(弥生～平安時代)
72	C－102 南小泉	古城三丁目311	東北少年院建設	26,334	発掘調査(宮城県)	集落跡(弥生～平安時代)
73	C－104 郡山	郡山三丁目14－31	住宅増築	15	立会い	集落跡(古墳末～奈良時代)
74	C－506 沖野城	沖野字中柵東35	店舗及び住宅建築	227	試掘済	館跡(中世)
75	C－197 六反田	富沢四丁目27－1,20－1,20－2	作業場建築	200	立会い	集落跡(縄文～平安・江戸時代
76	C－505 北目城	郡山四丁目5－2	下水道本管埋設	196	〃	館跡(中世)
77	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅建築	41	〃	城館跡(南北朝～江戸)
78	C－225 鶴巻II	福室字鶴巻2	〃	102	〃	集落跡(平安時代)
79	C－233 山口	富沢字山口64	〃	74	〃	集落跡(縄文～平安時代)
80	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣45－6,46－4	〃	65	〃	集落跡(古墳～中世)
81	C－505 北目城	郡山字舘ノ内53－6	〃	55	〃	館跡(中世)
82	C－136 栗	西中田七丁目3－8	〃	61	〃	集落跡(弥生～平安時代)
83	C－501 仙台城	川内追廻無番地	解体新築	42	〃	城館跡(南北朝～江戸)
84	C－197 六反田	大野田字六反田22－3	ガス管埋設工事	88	〃	集落跡(縄文～平安、江戸時代)
85	C－197 六反田	大野田袋前30－5	住宅建築	65	〃	集落跡(縄文～平安、江戸時代)
86	C－108 上野	富田字上野中127－6	〃	54	〃	集落跡(縄文・奈良・平安時代)
87	C－223 福田町	福田町二丁目1112	〃	92	〃	集落跡(平安時代)
88	C－239 御堂平	鈎取字御堂平	県立高校建設	20,000	発掘調査(宮城県)	集落跡(縄文～平安時代)
89	C－514 国分鞭館	榴ヶ岡5	図書館書庫増築	237	立会い	館跡(中世)
90	C－434 荒巻一本杉窯跡	台の原二丁目1－1	給水管引き込み	134	〃	窯跡(平安時代)
91	C136 栗	西中田七丁目3－8地内	住宅建築	75	〃	集落跡(弥生～平安時代)
92	C－136 栗	西中田七丁目3－8地内	〃	64	〃	集落跡(弥生～平安時代)
93	C－136 栗	西中田七丁目3－8地内	〃	76	〃	集落跡(弥生～平安時代)

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
94	C－104 郡山	郡山六丁目3－33	住宅増築	101	試掘済	集落跡(古墳末～奈良時代)
95	C－223 福田町	福田町二丁目1258	住宅建築	72	立会い	集落跡(平安時代)
96	C－233 山口	富沢字山口33他	〃	99	〃	集落跡(縄文～平安時代)
97	C－234 明屋敷	六丁目字庚田南1	倉庫建築	346	試掘済	集落跡(平安時代)
98	C－301 富沢水田遺構	長町字鳥居原33－12	住宅建築	107	立会い	集落跡(平安時代)
99	C－104 郡山	郡山五丁目150－10他	共同住宅建築	94	試掘	集落跡(古墳末～奈良時代)
100	C－271 神柵	沖野字新神柵84－4他	水道管布設工事	30	立会い	集落跡(縄文～平安時代)
101	C－183 牛小舎	蒲生一丁目2－12	住宅増築	10	〃	集落跡(奈良・平安時代)
102	C－510 南目城	銀杏町37－3	社屋建築	446	試掘済	館跡(中世)
103	C－215 砂押	沖野字砂押	水道管布設	48	立会い	集落跡(古墳～平安時代)
104	C－168 北屋敷	六丁目字庚田南北屋敷前5－1	住宅建築	75	〃	集落跡(平安・中世・江戸時代)
105	C－136 栗	中田七丁目12－9	〃	64	〃	集落跡(弥生～平安時代)
106	C－300 下ノ内浦	富沢字下ノ内浦12	倉庫・灯油スタンド建築	577	調査済	集落跡(奈良～平安時代)
107	C－108 上野	鈎取字新田町20－6	住宅新築	101	立会い	集落跡(縄文・奈良・平安時代)
108	C－233 山口	富沢字教場4	〃	77	〃	集落跡(縄文～平安時代)
109	C－102 南小泉	南小泉四丁目99－1	〃	63	〃	集落跡(弥生～平安時代)
110	C－109 人来田	茂庭字人来田山38－77	〃	81	〃	集落跡(縄文～弥生時代)
111	C－104 郡山	八本松二丁目10－19	住宅増築	9	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
112	C－102 南小泉	遠見塚一丁目18－36	倉庫増築	168	試掘済	集落跡(弥生～古平安時代)
113	C－215 砂押	沖野字砂押33－3	住宅建築	95	立会い	集落跡(古墳～平安時代
114	C－300 下ノ内浦	富沢字下ノ内浦29－1	賃貸住宅建築	152	試掘済	集落跡(奈良～平安時代)
115	C－102 南小泉	南小泉四丁目82－7	住宅建築	114	立会い	集落跡(弥生～平安時代)
116	C－193 山田上ノ台	山田字北前47－1の内	事務所・作業所建築	108	〃	集落跡(前期旧石器・後期旧石器・縄文・平安・江戸)
117	C－208 後河原	中田町字前沖39－2－3,4	住宅建築	159	〃	集落跡(奈良～平安時代)
118	C－501 仙台城	川内追廻無番地	解体新築	41	〃	城館跡(南北朝～江戸)
119	C－501 仙台城	川内追廻無番地	〃	43	〃	城館跡(南北朝～江戸)
120	C－211 中田畑中	袋原字畑中14－3	宅地造成	1,097	事前調査	集落跡(奈良～平安時代)
121	C－199 新田	長町南二丁目68	住宅新築	99	立会い	集落跡(奈良～平安時代)
122	C－403 五本松窯跡	台原四丁目37－7	解体新築	147	〃	窯跡(平安時代)
123	C－421 仙台東郊条理跡	蒲町字土手下19－10	住宅新築	56	〃	奈良・平安期の行政区画（平安時代)
124	C－108 上野	富田字上野中	市道改良	750	〃	集落跡(縄文・奈良・平安時代)
125	C－125 新組	茂庭字新組20－1	堆肥舎新築	32	試掘	集落跡(縄文・古墳・平安時代)
126	C－404 小田坂長命坂窯跡	小松島三丁目3－58	共同住宅解体新築	125	立会い	窯跡(平安時代)
127	C－252 養種園	南小泉一丁目13－12	住宅新築	77	〃	集落跡(平安後期)
128	C－102 南小泉	遠見塚一丁目233－5	〃	105	〃	集落跡(弥生～平安時代)
129	C－109 人来田	茂庭字人来田山142－17	〃	71	〃	集落跡(縄文～弥生時代)
130	C－202 泉崎浦	富沢字中谷地8,9,11－1～3	貸事務所建築	144	〃	集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
131	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅建築	40	〃	城館跡(南北朝～江戸)
132	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣33－15	〃	131	〃	集落跡(古墳～中世)
133	C－433 枡江	枡江6－17	事務所兼倉庫新築	44	〃	窯跡(平安時代)
134	C－028 愛宕山横穴群	越路14－23	住宅建築	87	〃	古墳(古墳時代末)
135	C－511 若林組	古城二丁目70	国家公務員宿舎建設	1,500		館跡(中世)
136	C－202 泉崎浦	富沢字中谷地8,9,11－1～3	共同住宅建築	282		集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
137	C－234 明屋敷	六丁目本新田東4－1他	倉庫・事務所建築	313	試掘済	集落跡(平安時代)
138	C－140 安久	西中田七丁目25－8	住宅建築	88	立会い	集落跡(奈良～平安時代)
139	C－505 北目城	郡山字北目宅地37－4	ガソリンスタンド改築	214	試掘済	館跡(中世)
140	C－240 萩ヶ丘	萩ヶ丘9－1	学校建設	1,172	立会い	集落跡(縄文・奈良・平安時代)

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
141	C－301 富沢水田遺構	富沢長町区画整理地内	病院建築	1,507	事前調査	集落跡(平安時代)
142	C－514 国分鞭館	榴ヶ岡地内	都計街路建設	29	立会い	館跡(中世)
143	C－102 南小泉	遠見塚二丁目505－1	住宅建築	114	〃	集落跡(弥生～平安時代)
144	C－226 田子	田子字三反	工場・事務所建設	929	試掘済	集落跡(平安時代)
145	C－141 葛蒲沢	鶴ヶ谷字葛蒲沢26－12	住宅建築	66	立会い	集落跡(縄文～平安時代)
146	C－102 南小泉	遠見塚一丁目7－35	〃	103	〃	集落跡(弥生～平安時代)
147	C－104 郡山	郡山三丁目14－12	〃	70	試掘済	集落跡(古墳末～平安時代)
148	C－419 陸奥国分寺	木ノ下二丁目20－2,18－1	〃	99	立会い	寺院跡(平安時代)
149	C－104 郡山	八本松二丁目36－3	〃	121	〃	集落跡(古墳末～平安時代)
150	C－240 萩ヶ丘	萩ヶ丘14－5,14－26	〃	150	〃	集落跡(縄文・奈良・平安時代)
151	C－505 北目城	郡山四丁目地内	道路拡幅工事	756	〃	館跡(中世)
152	C－208 後河原	中田字前沖34－2	宅地造成	1,820	事前調査	集落跡(奈良～平安時代)
153	C－522 和田織部館	蒲生字屋敷5－2	〃	2,673	試掘済	館跡(中世)
154	C－234 明屋敷	六丁目字庚田南9	住宅建築	90	立会い	集落跡(平安時代)
155	C－104 郡山	郡山五丁目3－13	住宅増築	98	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
156	C－141 葛蒲沢	鶴ヶ谷字葛蒲沢30－7	店舗付住宅建築	82	〃	集落跡(縄文～平安時代)
157	C－028 愛宕山横穴群	向山四丁目20－17	住宅増築	34	〃	古墳(古墳時代末)
158	C－131 北前	山田字北前46－11	事務所建築	79	〃	集落跡(前期旧石器・後期旧石器・縄文・平安・江戸)
159	C－110 羽黒堂	山田字羽黒堂1－41,2－1	宅地造成	1,737	試掘	集落跡(縄文・古墳・平安時代)
160	C－501 仙台城二の丸跡	川内	文科系合同研究室建築	336	事前調査	城館跡(南北朝～江戸)
161	C－028 後河原	中田町字前沖21,34－1,35	宅地造成	1,983	〃	集落跡(奈良・平安時代)
162	C－278 籠ノ瀬	郡山字天王前5－4	倉庫改築	126	立会い	集落跡(古墳・奈良・平安時代)
163	C－102 南小泉	遠見塚二丁目301－2	解体新築	94	〃	集落跡(弥生～平安時代)
164	C－223 福田町	福田町二丁目22－11	住宅増築	17	〃	集落跡(平安時代)
165	C－223 福田町	福田町二丁目8－3	住宅建築	75	〃	集落跡(平安時代)
166	C－202 泉崎浦	富沢字泉崎溝2－1	事務所建築	325	事前調査済	集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
167	C－108 上野	鈎取新田町	防火水槽設置	88	試掘済	集落跡(縄文・奈良・平安時代)
168	C－225 鶴巻 I	福室字鶴巻	〃	88	〃	集落跡(平安時代)
169	C－102 南小泉	南小泉字伊藤屋敷51－9	住宅増築	141	立会い	集落跡(弥生～平安時代)
170	C－102 南小泉	遠見塚二丁目507－8,507－11	住宅建築	61	〃	集落跡(弥生～平安時代)
171	C－102 南小泉	遠見塚一丁目50	〃	159	〃	集落跡(弥生～平安時代)
172	C－104 郡山	郡山三丁目117－2	共同住宅建築	159	事前調査済	集落跡 古墳末～奈良時代)
173	C－102 南小泉	遠見塚一丁目44－17	住宅新築	73	立会い	集落跡(弥生～平安時代)
174	C－403 五本松窯跡	台ノ原三丁目5－40	解体新築	106	〃	窯跡 (平安時代)
175	C－102 南小泉	古城三丁目114	貸ビル建築	176	事前調査	集落跡(弥生～平安時代)
176	C－202 泉崎浦	泉崎一丁目18－21	車庫新築	22	立会い	集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
177	C－104 郡山	郡山一丁目11－3	解体新築	55	申請取り下げ	集落跡(古墳末～奈良時代)
178	C－223 福田町	福田町二丁目1225－1	住宅建築	69	立会い	集落跡(平安時代)
179	C－195 富沢上ノ台	西多賀二丁目317－21,22	〃	85	〃	集落跡(縄文・平安時代)
180	C－226 田子	田子字三反69－2	〃	116	〃	集落跡(平安時代)
181	C－205 欠ノ上 II	郡上字欠ノ上33－6	〃	70	〃	集落跡(古墳・奈良・平安時代)
182	C－109 人来田	茂庭字人来田山142－15	〃	54	〃	集落跡(縄文～弥生時代)
183	C－104 郡山	郡山三丁目10－9	解体新築	39	調査済	集落跡(古墳末～奈良時代)
184	C－104 郡山	郡山四丁目13－4	幼稚園舎の増築	79	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
185	C－300 下ノ内浦	長町南四丁目29	住宅建築	57	立会い	集落跡(奈良・平安時代)
186	C－507 今泉城	今泉字久保田97－4	〃	62	〃	館跡(中世)
187	C－507 若林城	古城二丁目3－1	作業倉庫建築	312	〃	館跡(中世)

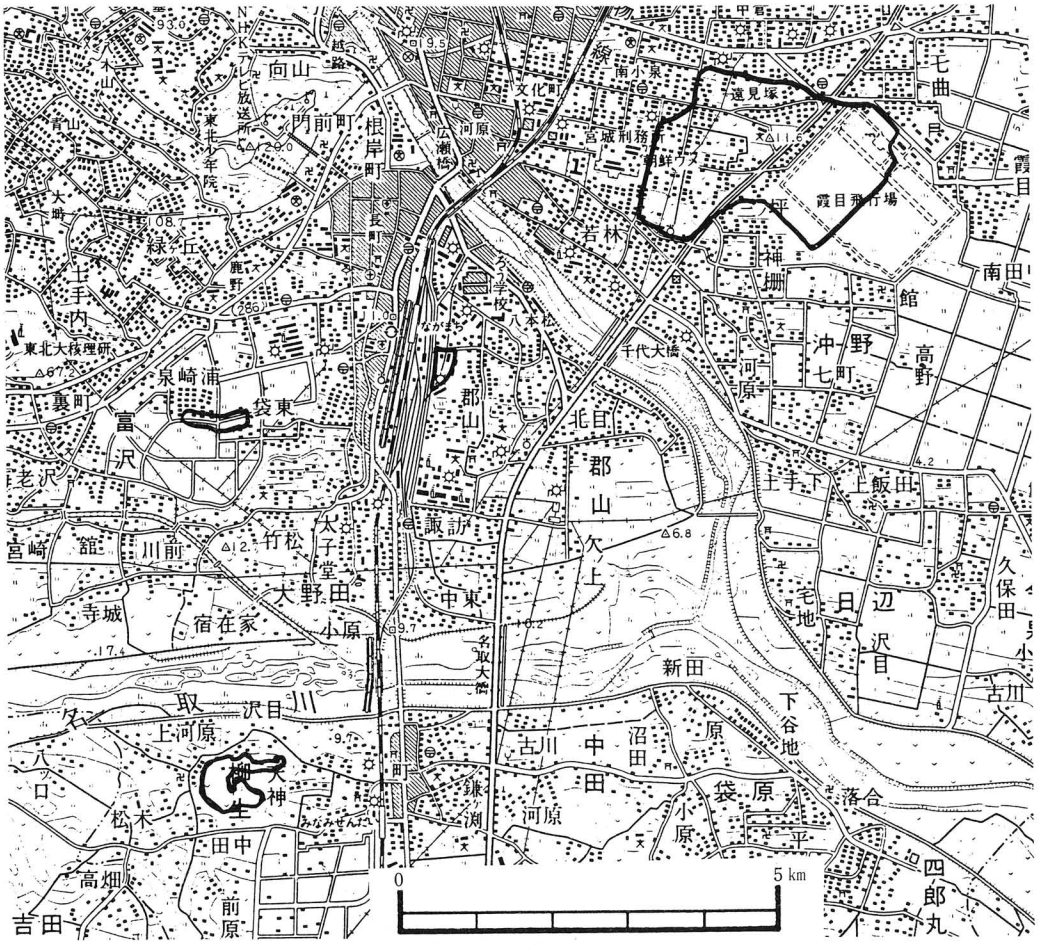
整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
188	C－188 山口	富沢字中谷地12他5筆	住宅建築	90	立会い	集落跡(縄文～平安時代)
189	C－102 南小泉	遠見塚二丁目309－24	住宅増築	26	〃	集落跡(弥生～平安時代)
190	C－504 茂ヶ崎城	長町茂ヶ崎46－146	〃	24	〃	館跡(中世)
191	C－300 下ノ内浦	富沢字下ノ内浦15	住宅新築	86	〃	集落跡(奈良・平安時代)
192	C－511 若林城	古城二丁目3－1	畜舎建築	291	〃	館跡(中世)
193	C－412 安養寺下窯瓦窯跡	安養寺三丁目15－18	消防学校車庫解体新築	175	〃	窯跡(平安時代)
194	C－104 郡山	郡山五丁目149－1	住宅新築	103	調査済	集落跡(古墳末～奈良時代
195	C－104 郡山	郡山三丁目16－17	住宅増築	75	試掘	集落跡(古墳末～奈良時代)
196	C－223 福田町	福田町一丁目14－7	住宅新築	124	立会い	集落跡(平安時代)
197	C－183 牛小舎	蒲生一丁目4－4	賃貸住宅建築	158	〃	集落跡(奈良・平安時代)
198	C－047 曽利松明神古墳	蒲町字穴田7－5,6,9	住宅建築	157	〃	古墳(古墳時代)
199	C－225 鶴巻II	福室字鶴巻2番51－1	〃	121	〃	集落跡(平安時代)
200	C－433 枡江	枡江6－10	住宅増築	87	〃	窯跡
201	C－233 山口	富沢字教塚30－2	住宅建築	144	〃	集落跡(縄文～平安時代)
202	C－511 若林城	古城二丁目3－1	農耕小屋建設	145	〃	館跡(中世)
203	C－511 若林城	古城二丁目5	公務員宿舎建設	468	〃	館跡(中世)
204	C－234 明屋敷	六丁目字北屋敷8,9,11	事務所付倉庫2棟建設	358	試掘済	集落跡(平安時代)
205	C－504 茂ヶ崎城	長嶺14番地先	ガス管埋設工事	35	立会い	館跡(中世)
206	C－110 羽黒堂	山田字羽黒寺15－1他	道路工事及び水道管埋設工事	1,610	〃	集落跡(縄文・古墳・平安時代)
207	C－047 下ノ内	富沢字下ノ内12－2	倉庫建築	96	〃	集落跡(縄文・古墳・平安時代)
208	C－102 南小泉	南小泉遠見塚西66－2他	〃	180	調査済	集落跡(弥生～平安時代)
209	C－234 明屋敷	六丁目庚田南5－1	作業棟の増築	36	立会い	集落跡(平安時代)
210	C－102 南小泉	若林三丁目258－7	共同住宅建築	145	〃	集落跡(弥生～平安時代)
211	C－235 地蔵浦	六丁目字行屋前7,10,11	住宅建築	134	〃	集落跡(中世)
212	C－223 福田町	福田町二丁目1110	店舗増築	28	〃	集落跡(平安時代)
213	C－104 郡山	郡山三丁目35－48,49	住宅建築	64	〃	集落跡(古墳末～奈良時代
214	C－510 南目城	銀杏町508	倉庫建築	732	試掘	館跡(中世)
215	C－300 下ノ内浦	富沢字下ノ内浦12他5筆	店舗建築	843	調査済	集落跡(奈良・平安時代)
216	C－102 南小泉	遠見塚一丁目38	解体新築	55	立会い	集落跡(弥生～平安時代)
217	C－146 清太原西	山田字清太原25	住宅増築	73	〃	集落跡(平安時代)
218	C－301 富沢水田遺構	長町 鹿野	電話線ケーブル埋設	1,715	試掘	集落跡(平安時代)
219	C－104 郡山	郡山三丁目10－2	住宅増築	10	立会い	集落跡(古墳末～奈良時代)
220	C－202 泉崎浦	泉崎一丁目1	共同住宅建築	362	試掘	集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
221	C－224 鶴巻I	福室字鶴巻2－7	集会所建築	173	立会い	集落跡(平安時代)
222	C－102 南小泉	南小泉四丁目54－2,54－9	住宅建築	70	〃	集落跡(弥生～平安時代)
223	C－419 陸奥国分寺	木ノ下二丁目18－9	〃	134	〃	寺院跡(平安時代)
224	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣117－1	〃	97	〃	集落跡(古墳～中世)
225	C－176 出花	中野字出花98番地	店舗建築	132	〃	集落跡(平安時代)
226	C－223 福田町	福田町二丁目1232	住宅建築	124	〃	集落跡(平安時代
227	C－108 上野	富田字上野西41－8	〃	131	〃	集落跡(縄文・奈良・平安時代)
228	C－102 南小泉	古城三丁目2－2	共同住宅建築	117	〃	集落跡(弥生～平安時代)
229	C－511 若林城	古城二丁目3－1	保護房建築	30	〃	館跡(中世)
230	C－224 鶴巻I	福室字鶴巻一番12－3	住宅建築	107	〃	集落跡(平安時代)
231	C－234 明屋敷	六丁目字庚田南4－1	〃	72	〃	集落跡(平安時代)
232	C－511 仙台城	川内追廻無番地	解体新築	40	〃	城館跡(南北朝～江戸)
233	C－104 郡山	郡山五丁目148－1	住宅建築	66	〃	集落跡(古墳末～奈良時代)
234	C－102 南小泉	南小泉字二の坪28－5	建造物解体	1,653	〃	集落跡(弥生～平安時代)

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
235	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢28－6	住宅建築	68	立会い	集落跡(縄文～平安時代)
236	C－104 郡山	郡山五丁目151－3	倉庫増築	903	試掘	集落跡(古墳末～奈良時代
237	C－102 南小泉	遠見塚二丁目36－10	住宅建築	64	立会い	集落跡(弥生～平安時代)
238	C－183 牛小舎	蒲生一丁目4－3	共同住宅の建築	115	〃	集落跡(奈良・平安時代)
239	C－211 中田畑中	袋原畑中10－1,10－2,10－3,10－4	宅地造成	929	事前調査	集落跡(古墳～平安時代)
240	C－234 明屋敷	六丁目字本新田角1	社屋及び倉庫建築	245	立会い	集落跡(前期旧石器・後期旧石器・縄文・平安・江江)
241	C－193 山田上ノ台	山田字根岸前3	共同住宅建築	139	〃	
242	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅解体新築	41	〃	城館跡(南北朝～江戸)
243	C－185 長町清水	大野田字清水15,14－4	宅地造成	670	試掘	集落跡(古墳？)
244	C－102 南小泉	遠見塚一丁目18－36	広告塔建築	6	〃	集落跡(弥生～平安時代)
245	C－202 泉崎浦	富沢字泉崎前10－7	事務所建築	71	〃	集落跡(縄文・古墳・平安・近世)
246	C－240 萩ヶ丘	萩ヶ丘9－1	仮説校舎建設	863	立会い	集落跡(縄文・奈良・平安)
247	C－233 山口	富沢字中谷地10,11－2	住宅建築	70	〃	集落跡(縄文～平安時代)
248	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣77－4	〃	109	〃	集落跡(古墳～中世)
249	C－203 砂押屋敷	砂押町142－2	〃	49	〃	集落跡(奈良～平安時代)
250	C－102 南小泉	古城三丁目109－6	住宅増築	13	〃	集落跡(弥生～平安時代)
251	C－102 南小泉	南小泉字二ノ坪28－45	住宅建築	72	〃	集落跡(弥生～平安時代)
252	C－224 鶴巻 I	福室字鶴巻1番109－7	住宅増築	35	〃	集落跡(平安時代)
253	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢29－5	住宅建築	71	〃	集落跡(縄文～平安時代)
254	C－300 下ノ内浦	富沢字下谷地5－4	〃	81	試掘	集落跡(奈良～平安時代)
255	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅解体新築	42	立会い	城館跡(南北朝～江戸)
256	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣164－5	共同住宅建築	119	〃	集落跡(古墳～中世)
257	C－136 栗	西中田七丁目3－4他	〃	169	試掘	集落跡(弥生～平安時代)
258	C－223 福田町	福田町二丁目1232	〃	86	立会い	集落跡(平安時代)
259	C－404 小田原長命坂窯跡	小松島三丁目40－51	住宅建築	24	〃	窯跡(平安時代)

II．調査報告

調　査　要　項

遺跡名	西台畑遺跡	南小泉遺跡	泉崎浦遺跡	柳生台畑遺跡
所在地	仙台市郡山二丁目27-1他	仙台市南小泉字伊藤屋敷52-9	仙台市富沢字泉崎東2-1	仙台市柳生台畑地内
調査期間	昭和57年４月16日～５月31日	７月２日	９月27日、 10月４日～10月13日	８月９日～８月12日
調査面積	2,280㎡	100㎡	180㎡	3,000㎡
調査主体	仙　台　市　教　育　委　員　会			
調査担当	仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係			
担当職員	柳沢・佐藤(甲)	加藤・金森	佐藤(隆)・加藤	早坂・高橋



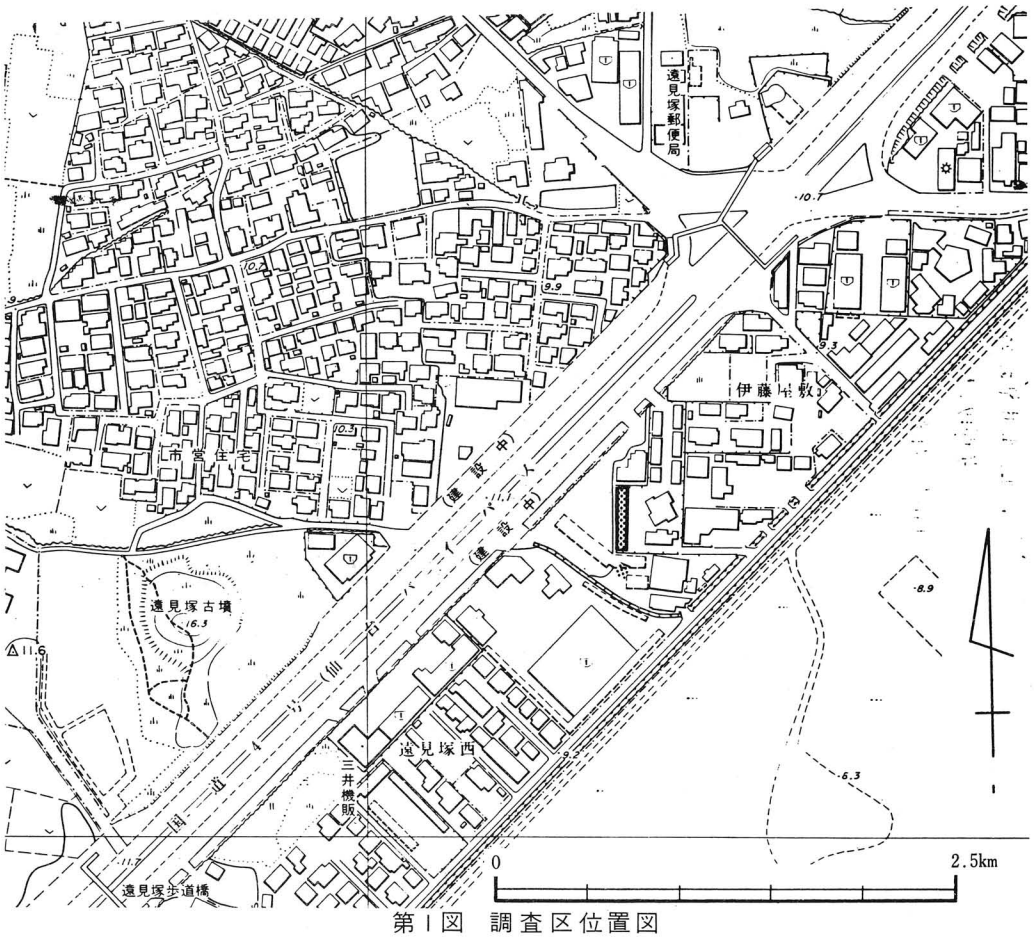
遺跡位置図

1. 南　小　泉　遺　跡

1．遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は、弥生時代から平安時代にかけての大集落跡であり、その範囲は仙台市遠見塚一・二丁目、南小泉二丁目、古城三丁目、南小泉字伊藤屋敷、字遠見塚西、字村東、字霞ノ目に渡っている。また当遺跡は、昭和14年に建設された霞ノ目飛行場の拡張工事の際に、多くの遺物・遺構が発見され、学会から注目されるようになった遺跡でもある。

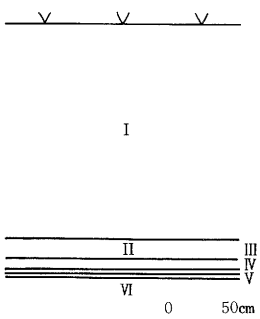
遺跡の中心には、東北で第三位の規模を持つ国指定史跡の遠見塚古墳、西方には法領塚古墳、猫塚古墳があり、かつては大小の古墳群を形成していたと思われる。また、東方は仙台市東郊条里跡、北方には陸奥国分寺跡・同尼寺跡があり、この辺一帯は歴史的環境に恵まれた地域であると言える。しかし、都市計画街路・川内南小泉線が遺跡を横切って間もなく開通するなど近年来、著しい宅地化と共に開発の波を受けている所である。



第Ⅰ図　調査区位置図

2．調査経過

昭和57年６月22日付、仙台市北根３－４－１山田忠、泉市黒松６－31高橋忠両氏より、仙台市南小泉字伊藤屋敷52－９において、ホテルを解体し新築する旨の発掘届が提出されたので、建物の建築によって破壊されると考えられる箇所の発掘調査を実施した。建築箇所に当たる敷地の東部に３×30ｍの南北方向のトレンチを設定し、盛土(約110cm)、旧水田耕作土（20cm）の直下、灰黄褐色砂質シルトの地山で遺構確認を行い、北壁で土壙を１基検出したため、トレンチを北側に３×９ｍ拡張し、土壙の全形を確認した。



第２図基本層位模式図

3．発見遺構

発見した遺構は、土壙１基である。

土壙　トレンチ東側のＶ層地山面で検出した。大きさは、長径３ｍ、短径1.5ｍの楕円形で、深さは10～20cmを計る。堆積土は、黒褐色粘土質シルトであり、弥生土器と土師器を出土する。

4．出土遺物

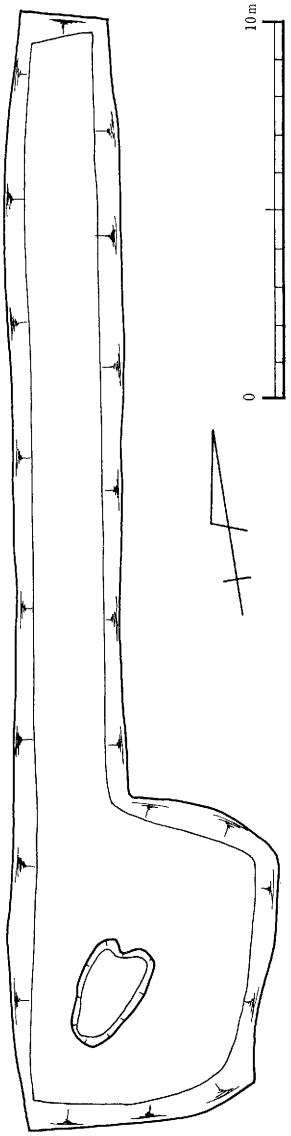
弥生土器　土師器に混入して、１点出土している。縄文が施されているが、小破片なので器形等の詳細は不明である。(第4図の1)

土師器　台付甕１点、坏１点、詳細不明な破片が20点程出土している。

〈台付甕〉　底部破片で、甕底部と台部のと接合面にナデの調整痕が観察される。その他詳細は不明である。(第４図の２)

〈坏〉　土壙の最下層より出土した。底部より体部中央にかけて外傾し、そこから内湾する緩いカーブを描きながら口頸部に至る。口縁部は「く」の字状に外反する。最大径は口縁部にあり、最大径は器高の比は約1.7：1である。底部は、静止ヘラ切りである。

全体的に胎土がもろくなっているため器面調達が部分的にしか観察できないが、外面は、体部下端から底部にかけてヘラケズリが施され、内面は、口頸部から体部中央にかけて斜位のヘラナデ



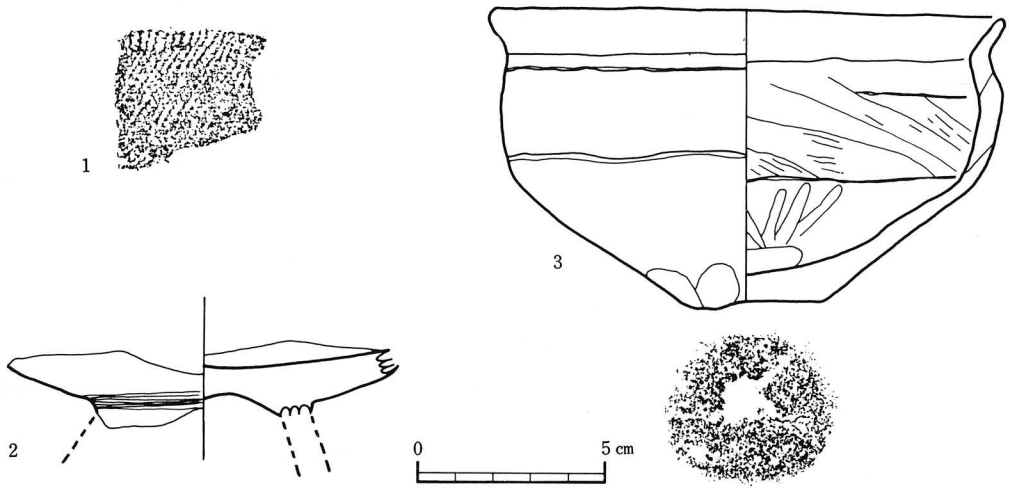
第３図　調査平面図

が、体部中央から底部にかけてヘラミガキ、指ナデが施されている。（第４図の３）

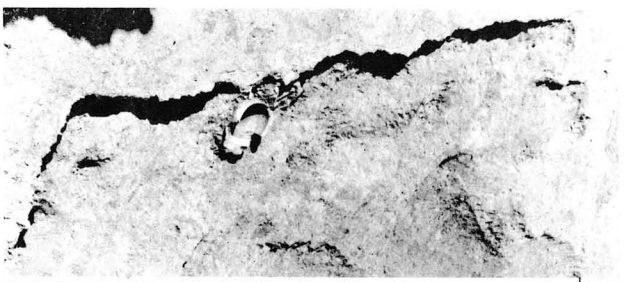
５．まとめ

今回の調査区は、南小泉遺跡の北端、仙台バイパスと霞ノ目飛行場の中間に位置する。仙台バイパスの東側は、飛行場拡張の際に土採りを受けている所が多く、今回の調査区も既に土採りされ、遺構の存在する可能性は少なかった。

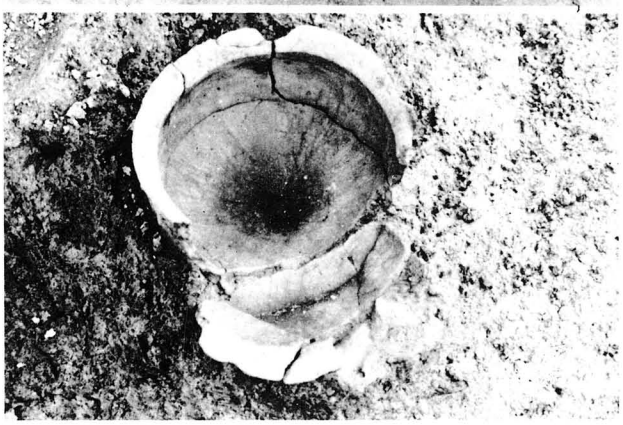
しかし、残存状況は良好ではなかったが、出土した遺物から古墳時代の土壙を１基検出することができたことは、遺跡の広がりを考える上で貴重な資料となり得ると確信する。



第４図　遺物実測図



図版１
土壙完掘状況



図版２
遺物出土状況

2. 泉　崎　浦　遺　跡

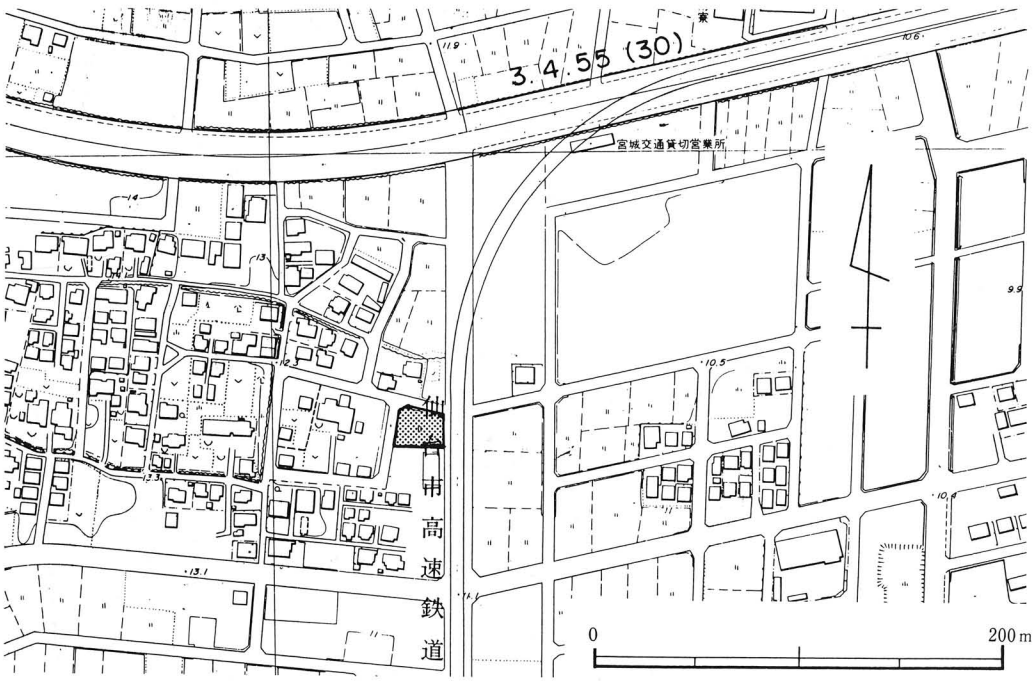
1．遺跡の位置と環境

泉崎浦遺跡は、東北本線長町駅の南西1.5kmに位置し、仙台市富沢にある。富沢地区は、沖積平野である「宮城野海岸平野」に含まれ、微地形的には、「郡山低地」である。この地区には、名取川が形成した自然提防、後背湿地が随所にみられる。本遺跡は、富沢地区の土地区画整理事業がなされる以前から集落があった箇所で、周囲の水田に比して、微高地状であり、縄文時代後期の土壙が確認されている。

この地区には、多くの遺跡が分布しており、近年、発掘調査が行なわれているものが10ヶ所以上もある。すぐ南側にある山口遺跡では、縄文時代中・後期の土壙等、平安時代の竪穴住居跡が発見されている。それ以外にも、下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、下ノ内遺跡等の重層構造の遺跡がある。

また、地下鉄工事に係る遺跡の発掘調査も、昭和56年度よりはじまっており、本調査の東隣では、平安時代と考えられる畦畔遺構が検出されている。中世には、新笊川の南に富沢館が出現する。

以上のように、富沢地区には、縄文時代中期中葉から、中世までの各種の遺跡が、数多く分布している。



第Ⅰ図　調査区位置図

2．調査に至る経過

昭和57年９月、東北電気保安協会より、仙台市富沢字泉崎東２－１に事務所を建設する旨の届が提出された。遺跡保存の見地から設計変更を要請したが、工法として、パイルを打たざるを得ないとのことであった。

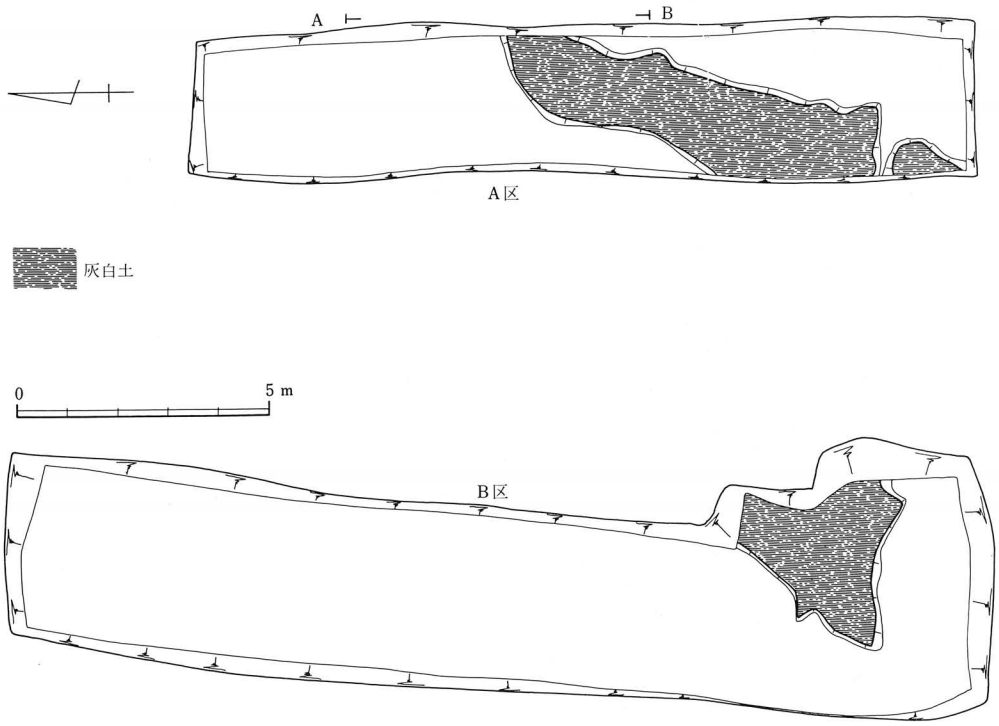
調査区に隣接する道路において、昭和56年度より、当係において高速鉄道建設に伴う事前の発掘調査を行なっている。その結果、平安時代頃と考えられる畦畔遺構が、道路面より 1.2 m 下で、検出されている。また、調査区の南東 150 mの個所で縄文時代後期初頭の土壙を検出している。

９月27日に試掘調査を実施したところ、一部に灰白の層が検出され、西側に延びる可能性があるので、10月４日より13日まで、発振調査を行なった。20ｍ×４ｍと22ｍ×4.5ｍの2本の調査区を設定し、盛土と旧耕作土を重機でもって排土し、遺構面を検出した。

3．発見遺構と出土遺物

Ⅳ層上面で、畦状遺構を検出した。上端幅1.30～1.75ｍ、比高５～10㎝、長さ９ｍ、上面に灰色の火山灰が堆積し、方向はＮ－15°－Ｅである。Ａ区の南で、水口を検出した。Ａ区西壁で上端幅38㎝、深さ12㎝を計る。

火山灰層の上面で、中世陶器片が１点出土した。（注１）



第２図　調査区平面図

4．まとめ

昭和57年度までの山口遺跡、泉崎浦遺跡の調査で、水田の畦畔上に10世紀初めに堆積した火山灰が確認されている。この火山灰は、今回検出された畦状遺構の上の火山灰と同一のものと考えられる。よって、この畦状遺構は、10世紀初めには形成されていたと考えられる。

水口附近の堆積土のレベルと広がり、B区のⅣ層はA区のⅣ層より15㎝前後高くなっていることより、水は西より東に流れていたと考えられる。

B区において火山灰の広がりは確認できたが、A区のような規則性は見出せなかった。

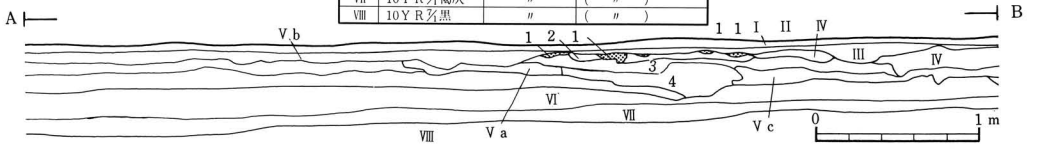
（注１）　名古屋大学　樽崎　彰一教授の御教示によると、常滑産である。

（基本層位注記）

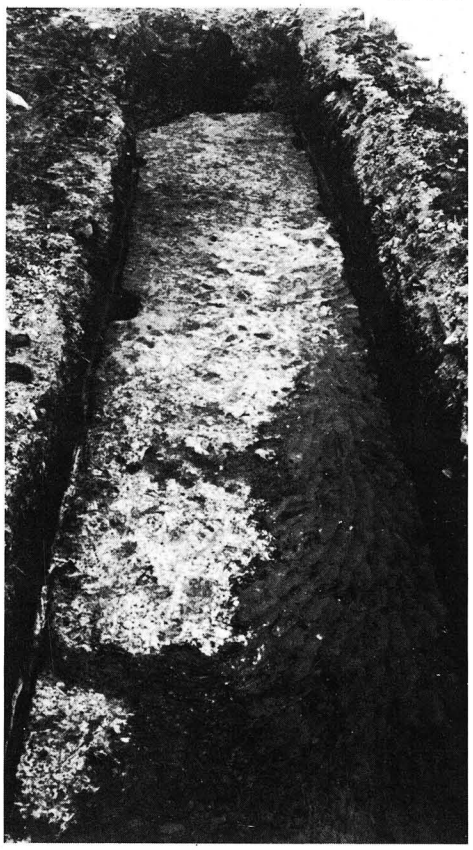
No.	土色	土性	備考
I			盛土
II	2.5Y3/3黒褐	砂質シルト	旧耕作土
III	10YR3/4褐灰	〃	
IV	2.5Y3/1黒褐	〃	

No.	土色	土性	備考
Va	2.5Y5/3灰黄	砂質シルト	
Vb	2.5Y5/4黄灰	砂	
Vc	10YR5/3灰黄褐	シルト質粘土	酸化鉄を多量に含む
VI	10YR3/3黒	〃	（スクモ層）
VII	10YR5/4褐灰	〃	（　〃　）
VIII	10YR3/1黒	〃	（　〃　）

No.	土色	土性	備考
1	5Y5/1灰	細砂	火山灰
2	10YR3/3黒褐	砂質シルト	
3	10YR暗褐	シルト	
4	10YR3/3灰黄褐	砂質シルト	

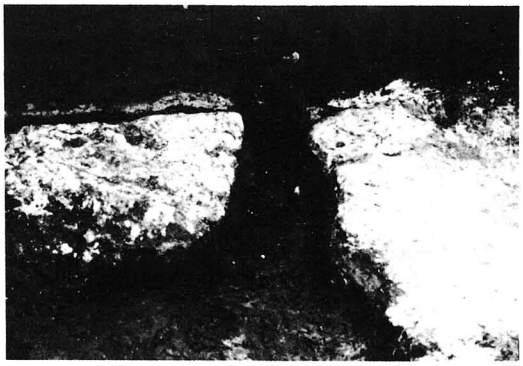


第３図　基　本　層　位



図版Ⅰ
A区畦状遺構検出状況

図版２　A区水口完掘状況

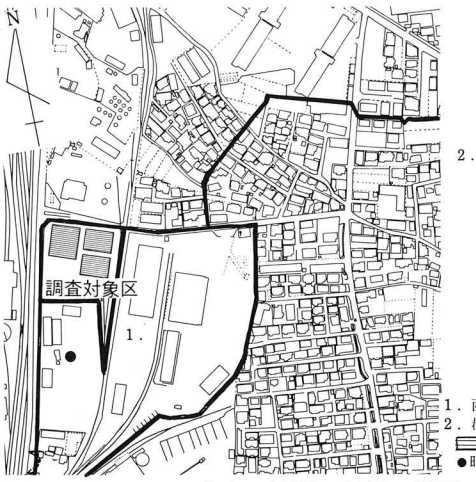


3. 西 台 畑 遺 跡（C－105）

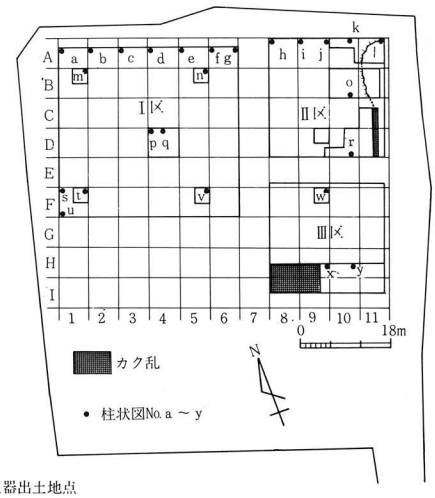
所 在 地：仙台市郡山二丁目27－１・２、29－３　　調査事由：病院建設

対象面積：約7,050㎡　　調査面積：約2,280㎡　　調査期間：４月16日～５月31日

担当職員：佐藤甲二・柳沢みどり



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡



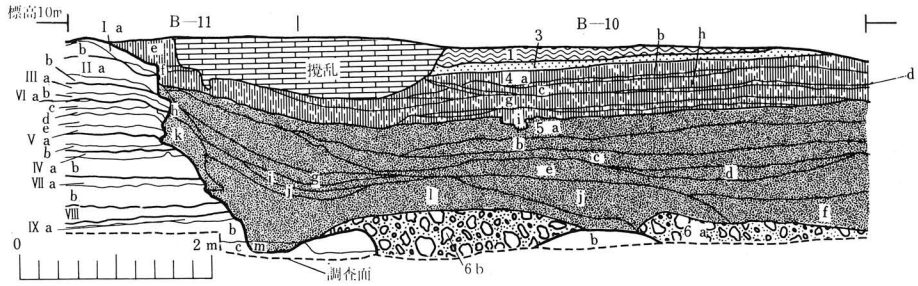
第２図　グリッド配置・河川平面図

西台畑遺跡は仙台市南部、名取川・広瀬川の形成した沖積地に立地し、東北本線長町駅の東約100ｍに位置する。遺跡の南東約2.4kmの地点で名取川に広瀬川が合流する。遺跡東側には、７世紀後半から８世紀初頭に位置づけられる官衙跡、郡山遺跡が隣接する。

昭和32年、煉瓦用粘土の採掘中に、地表下約２ｍの５×10ｍの狭い範囲より、器形の知られる土器が15点出土（内、合口２点）し、その後、人骨片を伴う土壙墓も検出され、当遺跡が弥生時代中期桝形期の墓域であることが確認された。また、地表下約50cmで土師器片が、地表下約３ｍでは縄文時代後期の一括土器が１点採集されている。(註1・2)

今回、調査対象となった地点は遺物出土地点（第１図）の北約120ｍの約7,050㎡で、標高11ｍ強の平坦地である。土器出土地点よりは若干低い。当地点はセメント工場となっていた地区で、調査前にはこれを取り壊した後の更地となっていた。

発掘調査はＮ－20°－Ｅを南北ライン（Ａ～Ｉ）、これに直交する東西ライン（１～11）の６×６ｍグリッドにより調査を進めた。便宜上調査区をⅠ～Ⅲ区の大地区に分けた(第２図)。各グリッドは４分割し、北東側より時計廻りにａ～ｄの小区を設けた。調査面積は約2,280㎡であった。調査はまず客土・上部攪乱部分の排土から行なわれ（約1ｍ）、工場構築時に於ける攪乱（場所によっては現表土下の４ｍ以上に達する部分もある）を除く部分のＢ－1(a)、Ｂ－5(a)、Ｂ－10(a)、Ｄ－4(d)、Ｄ－9(a)、Ｆ－1(a)、Ｆ－5(a)、Ｆ－9(a)、Ｈ－10(d)グリッドを、



河川堆積土土層註記表

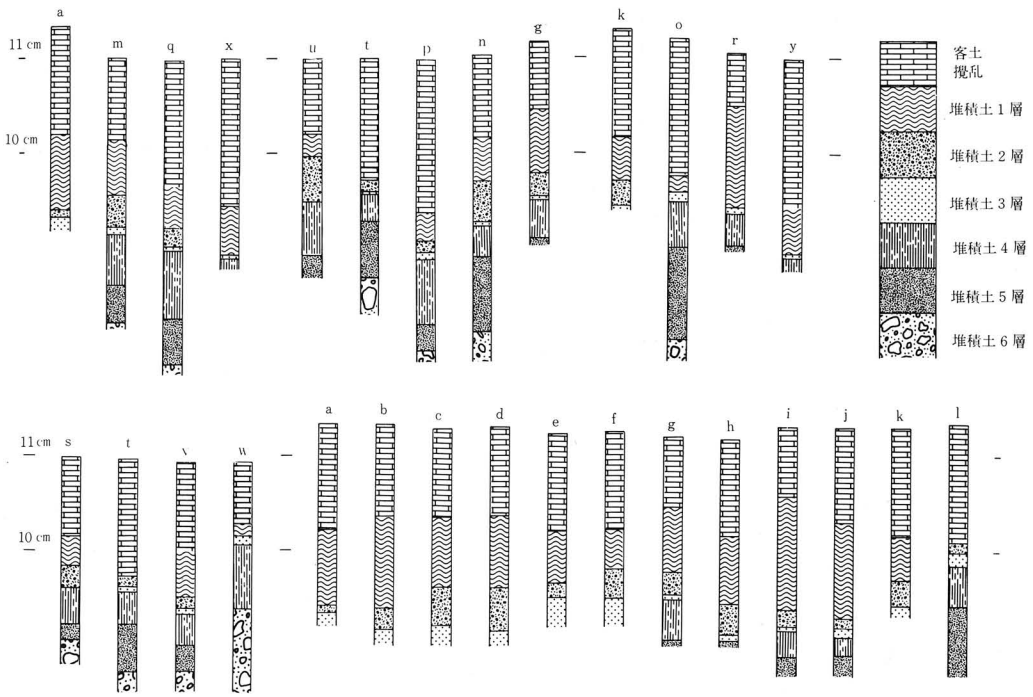
1	にぶい黄橙色(10YR6/4)	シルト	鉄分、マンガン粒を含む。灰白色を縦縞状に混在さす。
3	灰白色(10YR8/1)		灰白色火山灰
4 a	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	鉄分、マンガン粒を含む。灰白色を縦縞状に混在さす。
b	にぶい黄橙色(10YR6/3)	粘質シルト	鉄分、マンガン粒を含む。灰白色を縦縞状に混在さす。
c	にぶい黄橙色(10YR6/4)	粘土	鉄分、マンガン粒を含む。灰白色を縦縞状に混在さす。
d	にぶい黄褐色(10YR5/4)	粘土	マンガン粒を多量に含み黒色に近い帯状を呈す。上部に多く下部に行くに従い少量となる。
e	にぶい黄橙色(10YR7/3)	シルト	マンガン粒を含む。
f	にぶい黄橙色(10YR7/2)	粘質シルト	鉄分をシミ状に含む。
g	明黄褐色(10YR6/6)	粘土	マンガン粒を含む。
h	にぶい黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	粒子が細い。鉄分を多量に含む。
i	灰白色(2.5Y7/2)	粘土	グライ層
5 a	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂層	西半分がより粗な砂を含み、東半分はやや密な砂である。鉄分を含む。グライ作用を受けている部分がある。
b	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂層	全体的に粗い粒子である。鉄分が強く沈着している。グライ作用を受ける。
c	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂層	全体的に細い粒子である。中央部で鉄分が強く沈着している。西半分でグライ作用を受けている。
d	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂礫層	粗い砂を基層として4cm前後の円礫を含む。灰白色の粘土ブロックをわずかに含む。
e	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂層	全体的に粗い粒子である。若干砂礫層を含む。
f	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂層	縞状に堆積。若干円礫を含む。
g	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂質シルト	グライ作用を受けた部分がある。
h	にぶい黄橙色(10YR7/3)	粘質シルト	河岸崩壊土か？鉄分、マンガン粒を含む。
i	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂層	粒子が細い。グライ作用を受けた部分、鉄分が沈着した部分がある。
j	にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂礫層	粗砂を基層とし小円礫を含む。鉄分が強く沈着した部分がある。
k	青灰色(5B5/1)	砂層	全体的にやや密な粒子である。グライ作用を受け青灰色にグライ化している。
l	明黄褐色(10YR6/6)	砂層	灰白色の粘土、粗い砂、密な砂、シルトの混合層で、小円礫をまばらに含む。
m	にぶい黄橙色(10YR7/3)	シルト	鉄分、マンガン粒を含む。グライ層。
6 a	にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂礫層	鉄分の沈着が強く、黒色化した部分もある。
b	にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂礫層	5～10cmの大礫を少量含むが、3cm前後の小礫と粗い砂を基層とする。

第3図　B-11、B-10グリッド南壁セクション図

河岸部土層註記表

Ⅰa	にぶい黄橙色(10YR⅔)	粘質シルト	鉄分、マンガン粒を含む。
b	にぶい黄橙色(10YR⅔)	粘質シルト	鉄分、マンガン粒を含む。
Ⅱa	暗黄褐色(10YR⅝)	シルト	にぶい黄橙色と明黄褐色とが混合。鉄分、マンガン粒を含む。
b	黄褐色(10YR⅝)	粘質シルト	にぶい黄橙色と明黄褐色と灰黄褐色とが混合。鉄分、マンガン粒を多量に含む。下位にマンガン粒を多く含む。
Ⅲa	褐色(10YR¼)	粘土	マンガン粒を全面的に含む。
b	褐色(10YR⅓)	粘土	褐色と明黄褐色と灰黄褐色とにぶい黄橙色以上とが混合。粒の大きい(径2㎜)マンガン粒を全面的に含む。
Ⅳa	暗褐色(10YR⅜)	粘土	暗褐色を基調とし、明黄褐色・灰黄褐色・にぶい黄橙色を若干含む。マンガン粒を含むがⅡ層より量的に少ない。鉄分も含む。グライ層でⅢb層とⅣb層の中間層。
b	黒褐色(10YR⅜)	粘土	鉄分、マンガン粒をまばらに含む。グライ層。
c	浅黄橙色(10YR⅝) 灰オリーブ色(7.5Y½)	粘土	グライ作用を受けた部分は灰オリーブ色となる。黒褐色を部分的に含む。マンガン粒少量。鉄分を含む。
d	にぶい黄褐色(10YR⅝) 灰オリーブ色(7.5Y½)	粘土	グライ作用を受けた部分は灰オリーブ色となる。灰黄褐色を部分的に含む。Ⅳc層よりも、マンガン粒、鉄分を少なく含む。
e	にぶい黄褐色(10YR⅝) オリーブ灰色(10Y½)	粘土	グライ作用を受けた部分はオリーブ灰色となる。Ⅳd層よりもマンガン粒、鉄分を少なく含む。
Ⅴa	明黄褐色(10YR⅝) オリーブ灰色(10Y½)	粘土質シルト	グライ作用を受けた部分はオリーブ灰色のなる。シミ状に黄褐色を含む。マンガン粒微量、鉄分を含む。Ⅳe層とⅤb層の中間層。
b	オリーブ灰色(10Y½)	砂質シルト	下位になるに従い脱色し、浅黄色となる。鉄分が汚れた縞状に横位にひろがる。白色粒を含む。グライ層。
Ⅵa	灰白色(7.5YR⅞)	シルト質粘土	鉄分を含む。Ⅴb層とⅥb層の中間層。グライ層。
b	黒色(10YR²⁄₁)	粘土	かなり固くしまっている。鉄分、マンガン粒、白色粒を含む。グライ層。
Ⅶa	灰色(7.5Y⅝)	シルト	良くしまっている。マンガン粒微量、白色粒を含む。Ⅵb層とⅦb層の中間層。
b	灰白色(7.5Y⅞)	シルト	鉄分粒(径3㎜前後)を点在さす。マンガン粒微量、白色粒を含む。
Ⅷ	灰色(5Y⅝)	粘質シルト	マンガン粒微量、白色粒を含む。粒子の大きい鉄分粒を少量含む。
Ⅸa	灰白色(5Y⅞)	砂質シルト	マンガン粒・白色粒を微量含む。鉄分がシミ状に拡がった部分がある。Ⅷ層とⅨ層の中間層。
b	灰白色(5Y⅞)	砂層	マンガン粒・白色粒を微量含む。鉄分がシミ状に拡がった部分がある。
c	灰白色(5Y⅞)	砂層	区層より粗い砂層。グライ作用を受けたオリーブ灰色部分がある。鉄分がシミ状に拡がった部分がある。

※Ⅳa～Ⅸbまでの各層にはサンドパイプが認められる。



第4図　土層柱状図

中心として調査を進め、状況に応じて拡張を行った。その結果、Ⅰ～Ⅲとも河川内であることが判り、わずかにⅡ区Ａ・Ｂ－11グリッドで河川左岸が検出された。岸側では、客土及び攪乱土の下に第Ⅰ～Ⅸ層までの９層が検出され、最下層第Ⅸ層は砂層となり（第３図）、この下には、攪乱部分排土（地表下約3.5ｍ）の結果より同様の砂層が続くことが確認された。河川堆積土は大別すると６層から成る。２、５、６層の砂層、砂礫層は河川が機能していた間の堆積物であり、６層の礫層中には30cm以上の礫が多量に含まれており（写真５）、当時は流れがかなり強かったことが窺える。３層は灰白色火山灰層で、郡山遺跡で検出されているものと同様のものである。[註３]この降下火山灰は現在のところ西暦900年前後と考えられている。１、４層は粘土及びシルトから成っており、これら両層は、サンドパイプ、鉄分、マンガン粒、グライ化が認められることより、水の影響下に置かれていたことが推測される。河岸層のどの層より河川が切り込んでいたかは、河岸部上部が攪乱等によりすでに削平されていた為、確認は出来なかった。

河川は堆積土により、灰白色火山灰降下前と降下後の二時期に分けられる。降下前の流路は土層柱状図（第４図）を見る限りでは、調査区に対して北西から南東へ流れていたことが想定され、川幅は60ｍ以上を持つことは確実である。従って、土器を出土した地点は河川右岸の自然堤防上に立地していたものと考えられる。降下後の河川流路は、降下前とほぼ同様、あるいはより東側に寄っていたことも十分に考えられる。しかしながら、砂礫層中の礫が小さい点より、河川であっても小規模なもの、あるいは氾濫時に於ける堆積物の可能性もある。

出土遺物は全て河川堆積土層中よりの出土で、河岸層中よりの出土は認められなかった。遺物は土器片を中心として平箱１箱程度であり、縄文時代（後期以後？）の土器片３点を除くと他は全て古墳時代以後の土師器片、須恵器片、灰釉陶器片、赤焼土器片で、これは６層を中心としており、5、2層からも若干出土した。尚、河岸層及び河川堆積土中のプラント・オパール分析を宮崎大学の藤原宏志教授に依頼したが、各層よりイネのプラント・オパールは検出されなかった。

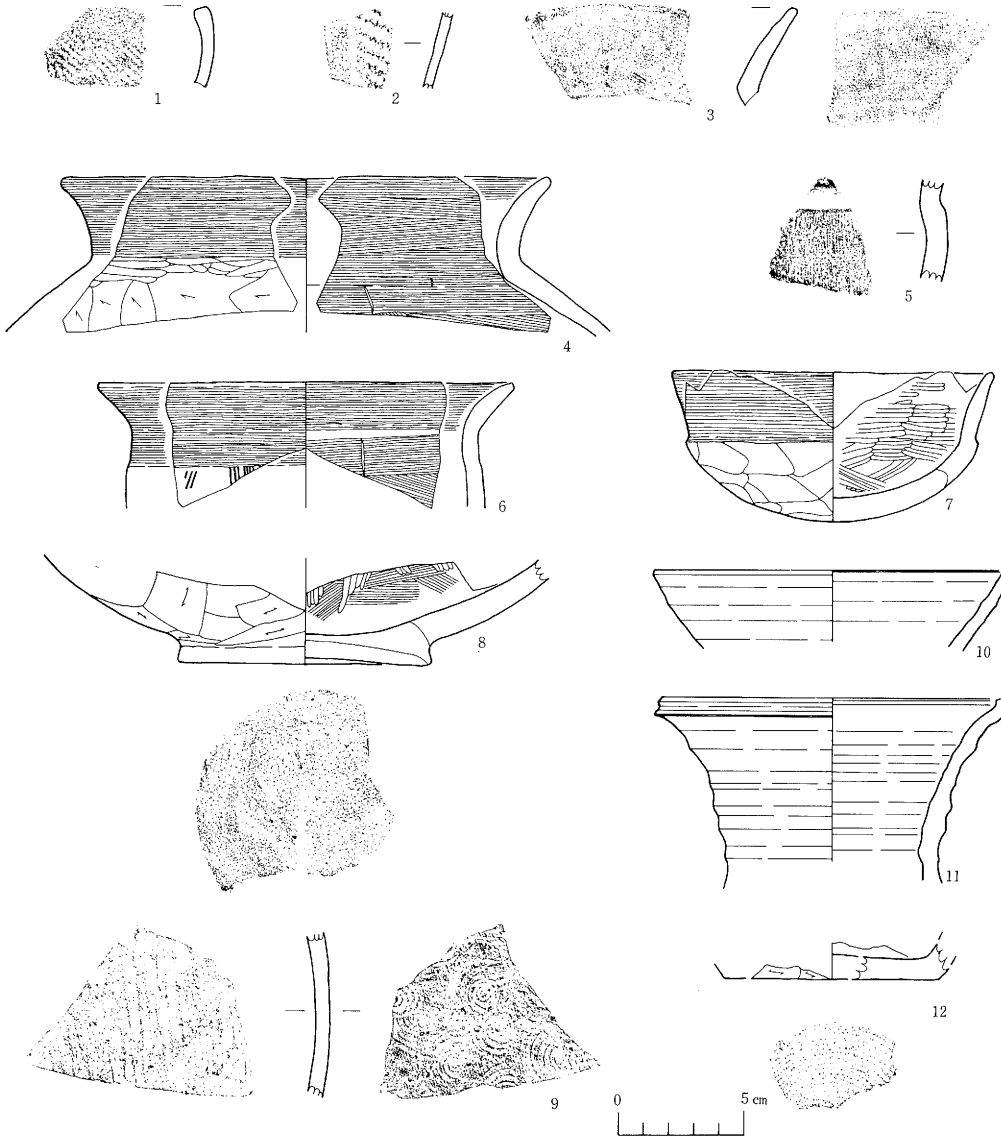
ま と め

今回の調査では旧河川が検出されたのみで、西台畑遺跡に関連する遺構、遺物は全く検出されなかった。現在、広瀬川は遺跡の西約１kmを北西から南東に向って流れているが、遺跡南南東約50ｍの地点には旧河道の痕跡が明瞭に認められることより、当調査検出の河川は広瀬川の旧河道であることはほぼ間違いないと思われる。しかも降下火山灰の年代より10世紀前後以前の年代が想定され、西台畑遺跡は右岸の自然堤防上に、郡山遺跡は左岸の自然堤防上に形成された遺跡であると言えよう。

註１）伊藤玄三「仙台市西台畑出土の弥生式土器」『考古学雑誌』第44巻第１号Ｐ11～28　1958

２）伊藤玄三「東日本における弥生時代の墓制」『文化』第25巻第３号Ｐ484～486　1961

３）仙台市教育委員会「郡山遺跡Ⅱ」『仙台市文化財調査報告書第38集』Ｐ48　1982



出土土器観察表

番号	地区名	層位	種別	器形	部位	外面施文・調整			内面調整			法量(cm)			残存
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	口径	底径	器高	
1	IID-9(a)	堆積土6	縄文土器	鉢	口縁部～体部上半	ミガキ	横位LR縄文	――	ミガキ	ミガキ	――	――	――	――	――
2	II	堆積土6	縄文土器	鉢	体部	――	RL縄文、沈線文	――	――	ミガキ	――	――	――	――	――
3	ID-4	堆積土6	土師器	甕?	口縁部	ハケメ	――	――	ハケメ	――	――	――	――	――	――
4	IID-9(a)	堆積土6	土師器	甕	口縁部～体部上半	ヨコナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	――	ヘラナデ→ヨコナデ	ヘラナデ	――	19.2	――	――	1/4
5	IB-5(a)	堆積土2	土師器	甕	口縁部～体部上半	ヨコナデ	ハケメ	――	不明(マメツ)	不明(マメツ)	――	――	――	――	――
6	IIIF-9	堆積土6	土師器	甕	口縁部～体部上半	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	――	ヨコナデ	ヘラナデ	――	16.4	――	――	1/8
7	IIB-10	堆積土6	土師器	坏	口縁部～底部	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			12.6	――	5.0	1/4
8	表採	――	土師器	甕	体部下半～底部	――	ヘラケズリ	木葉痕	――	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ	――	10.0	――	1/8
9	表採	――	須恵器	甕?	体部	――	平行叩き目	――	――	同心円文→布目	――	――	――	――	――
10	IIIF-9	堆積土6	須恵器	坏	口縁部～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	――	ロクロナデ	ロクロナデ	――	14.2	――	――	1/4
11	IIIB-10	堆積土5	灰釉陶器	壺	口縁部～頸部	ロクロナデ	――	――	ロクロナデ	――	――	13.4	――	――	1/4
12	II表採	――	赤焼土器	甕	体部下部～底部	――	ヘラケズリ	回転糸切	――	ロクロナデ	――	――	8.6	――	1/4

第5図　出　土　遺　物

1.調査前全景(北東より)

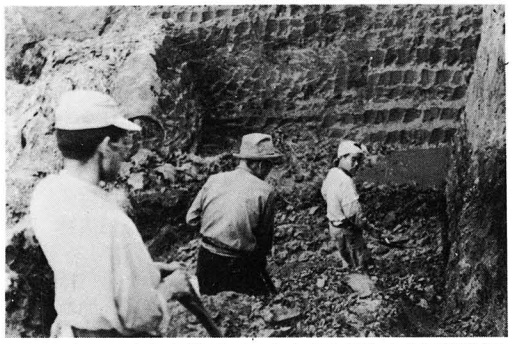
2.調査前全景(南より)

3.Ⅰ区調査状況(南より)

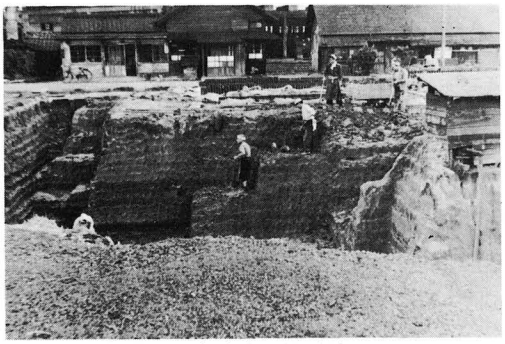
4.Ⅱ・Ⅲ区調査状況(南より)

5.堆積土6層状況

6.B-10・11南壁セクション(北より)



西台畑遺跡土器出土地点周辺粘土採掘状況



昭和30年代(伊勢孝太郎氏提供)

4. 柳生台畑遺跡（C－285）

発見に至る経過

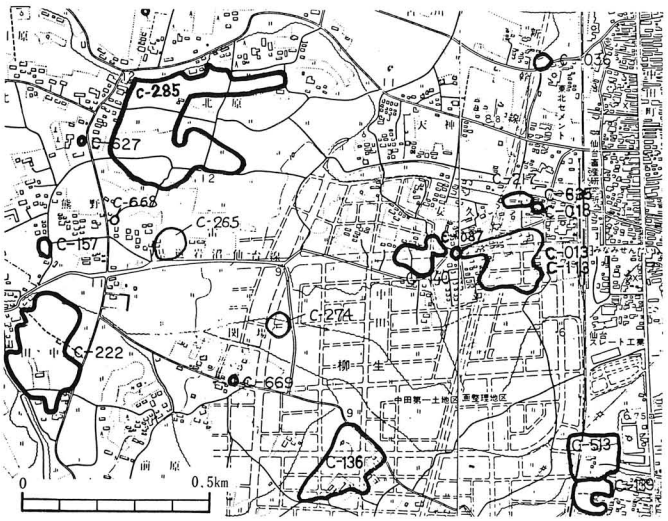
当該地は昭和55年より団体営圃場整備事業を実施して来た地区である。57年度の区画整理工事の際にブルドーザーで地表から40cm程、削平を行なったところ、土師器、須恵器などの遺物と住居跡などの遺構が発見された。

遺跡に対する処置

上記のことから当教育委員会は、遺跡の所有者である仙台市柳生土地改良事業共同施行（委員長、阿部雄作）に対して、文化財保護法、第57条の５、第１項の規定により遺跡発見届の提出を指導した。そして８月９日の遺跡発見後、ただちに仙台市柳生土地改良事業共同施行と、その指導部局である仙台市経済局耕地課との３者間で遺跡に対する処置について協議に入った。現地での協議も交えた中で、当教育委員会としては文化財保護の見地から、遺構を破壊しない高さまで盛土をして区画整理工事を行なうよう設計変更を求めた。協議の中でも、その方法が最善であるとの合意に達し、遺構発見面から1.0ｍ盛土をする設計変更をして、遺跡を保存する処置を行なった。当圃場整備事業は、昭和58年１月19日に完了した。

遺跡現状写真（58年２月）

なお、当教育委員会は本遺跡を仙台市文化財登録番号Ｃ－285として登録した。



周辺の遺跡

Ｃ－013	安久東古墳
Ｃ－018	伊豆野権現古墳
Ｃ－036	上古川古墳
Ｃ－037	安久諏訪古墳
Ｃ－113	安久東遺跡
Ｃ－136	栗 遺 跡
Ｃ－139	壇腰遺跡
Ｃ－140	安久遺跡
Ｃ－157	雷 遺 跡
Ｃ－217	中田神社裏遺跡
Ｃ－222	関場遺跡
Ｃ－265	雷東遺跡
Ｃ－274	谷地田遺跡
Ｃ－285	**柳生台畑遺跡**
Ｃ－513	前田館跡
Ｃ－611	弘安十年供養碑
Ｃ－627	小西利兵衛頌徳碑
Ｃ－635	伊豆野権現古墳群
Ｃ－668	雷 古 碑
Ｃ－669	関場古碑群

5．仏像彫刻緊急実態調査略報III

調査員　渡辺洋一・成瀬茂・　岩佐光晴（東北大学文学部東洋日本美術史研究室助手）

調査補助員　岡崎修子・長久保孝徳・菅原順子・大久保富美・窪田須美恵・長岡龍作・村上公司

仏像彫刻の調査は一昨年・昨年に続き３ヶ年目となるが、今年度は並行して近世社寺建築調査が行なわれたこともあり、件数としてはわずかな調査しか出来なかった。しかしながら近世社寺建築調査を通じ、また仏像彫刻の調査を行なっていない寺院の予備調査を合せて行なうことが出来た。

調査にあたっては仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係が主体となり、仙台市博物館学芸室・東北大学文学部東洋日本美術史研究室・同附属日本文化研究施設の協力を得て行なった。また調査上の疑問点その他については仙台市文化財保護委員会委員故亀田孜東北大学名誉教授の指導助言をいただいた。

〈概　要〉

今年度は表に示した６件154軀の調査を実施した。

昭和57年度仏像彫刻調査実施箇所一覧表

寺院名	調査日	調査員	補助員	仏像	年代	備考
輪王寺	57．5．10	渡辺洋一	岡崎修子	愛染明王坐像 毘沙門天立像 烏枢渋摩明王立像	江戸 〃 〃	寺伝によると、先住（日置五峰氏）が、収集した仏像であるという。
松音寺	57．7．27 28 29	渡辺 成瀬　茂	岡崎 長久保孝徳 菅原順子	釈迦如来坐像（本尊） 阿難陀像（脇侍） 迦葉陀像（脇侍） 十六羅漢像（十六軀） 烏枢渋摩明王立像 明王部像（薬師師扼？） 焔摩十王像（十二軀） 不動明王坐像 矜羅童子立像 制吒迦童子立像 観音像 三十三観音（三十一軀） 阿弥陀如来立像 祖師像（二軀） 文殊菩薩坐像 達磨大師坐像 釈迦三尊十六善神像（二十四軀）	江戸 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	文化八年の墨書銘あり。 仙台三十三番丸所観音 第23番札所本尊
昌伝庵	57．8．3 5	渡辺	長久保 菅原	釈迦如来坐像（本尊） 文殊菩薩坐像（脇侍）	江戸 〃	元禄二年の墨書銘あり。本尊と同時位と思われる。

寺院名	調査日	調査員	補助員	仏像	年代	備考
昌伝庵	57. 8. 3 5	渡辺洋一	長久保 菅原	普賢菩薩坐像（脇侍） 十六善神像（二十軀） 愛染明王坐像 毘沙門天立像 天部像（破損仏） 祖師像（四軀） 文殊菩薩坐像 達磨大師坐像	江戸 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	
清浄光院	57. 8. 4	渡辺	長久保 菅原	不動明王立像 矜羯羅童子立像 制吒迦童子立像 六地蔵尊像（破損仏・四軀） 焔摩十王坐像（十二軀）	江戸 〃 〃 〃 〃	文政五年の墨書銘あり。
真福寺	57. 9. 17	渡辺 岩佐光晴	菅原 長岡龍作 村上公司	伝安国上人祖師像 妙見菩薩立像（個人蔵）	中世 江戸か？	妙見菩薩は、同寺檀家所蔵仏。 この調査には、故亀田孜仙台市文化財保護委員会委員が同行。
阿弥陀寺	57. 10. 18 58. 2. 16	渡辺	岡崎 大久保富美 窪田須美江	聖観世音菩薩立像	鎌倉	57.10.17の調査には故亀田孜委員が同行。

今年度の調査物件の特徴としては、三十三観音（松音寺蔵：写真６）、十六善神（松音寺蔵：写真12・昌伝庵蔵：写真40～59）、焔魔十王（松音寺蔵：写真15～27・清浄光院蔵：写真28～39）のようにある程度の数の仏像がセットになっている物件があったため、調査寺院数のわりには調査物件が多くなった。

また、今回の調査物件の中には輪王寺の愛染明王（写真１）・烏枢渋摩明王（写真２）、松音寺の不動明王（写真９）・烏枢渋摩明王（写真10）・薬厠師据と思われる明王部像（写真11）・昌伝庵の愛染明王（写真５）等のように本来曹洞宗では見られないような造像例があった。

このことは以下のような理由からと思われる。まず輪王寺では、寺が明治初年の火災で堂宇宝物等そのほとんどが焼失したことから、これらの仏像はその後収集されたものであるし、松音寺では藩政時代隣接していた真言宗恵日山遍照寺（廃寺）所蔵の仏像が遷仏されたものと思われるし、昌伝庵の愛染明王についても元来は単独仏堂に安置されていた同像が後年同寺に遷されたものと思われる。

ところで、今年度調査を行なって物件は江戸時代の作仏がほとんどであったことであり、胡粉彩色の像が多く、ものによってはその剝落が目立つほど破損しているものもあるが、比較的保存状態は良好なものが多い。

〔註〕

(1) 仙台市文化財調査報告書第49集『仙台市文化財分布調査報告Ⅰ』「近世社寺建築調査概報」参照。

(2) 輪王寺・松音寺・昌伝庵は、藩政時代仙台領では南鍛冶町の泰心院と共に曹洞宗四叢林と称され、在仙神院では有数の格式を有しており、仙岳院には及ばないものの在仙寺院では比較的仏像例を多い寺院である。

(3) 明治９年３月５日の北山一円の大火で、山門（元禄５年造立）を除き焼失している。

写真

写真 1
愛染明王坐像(輪王寺)

写真 2
烏枢渋摩明王立像(輪王寺)

写真 3　毘沙門天立像(輪王寺)

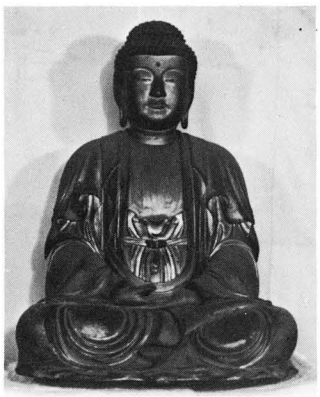


写真 4　釈迦
釈迦如来坐像(松音寺)

写真 5
愛染明王坐像(昌伝庵)

写真 7　釈迦如来坐像(昌伝庵)

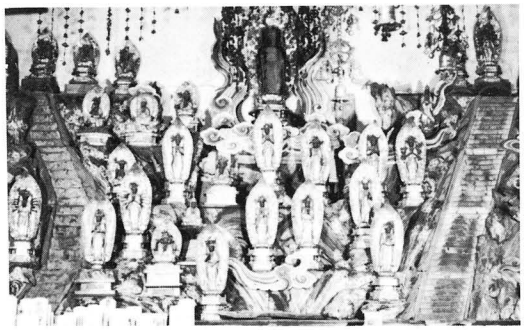


写真 6　三十三観音(松音寺)

写真 8　同上　銘　　文

写真 9
不動明王坐像(松音寺)

写真10
烏枢渋摩明王立像(松音寺)

写真11　明王部像(松音寺)

写真12　釈迦三尊十六善神像(松音寺)

写真13　不動三尊像(清浄光院)

写真14　毘沙門天立像(昌伝庵)

焔摩十王(松音寺蔵)

写真15
葬頭河婆

写真16
焔摩大王

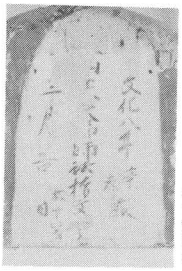


写真17
銘　　文
(焔摩大王背面)

写真11　秦広王

写真19　太山王

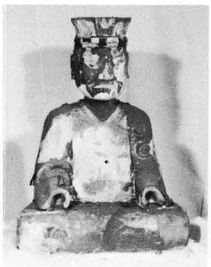


写真20　平等王

写真21　五道転輪王

写真22　五官王

写真23　宋帝王

写真24　都市王

写真25　変成王

写真26　初江王

写真27　太山王

焔摩十王(清浄光院蔵)

写真28　秦広王

写真29　焔摩大王

写真30　葬頭河婆

写真31　太山王

写真32　平等王

写真33　五道転輪王

写真34　五藻王

写真35　宋帝王

写真36　都市王

写真37　変成王

写真38　初江王

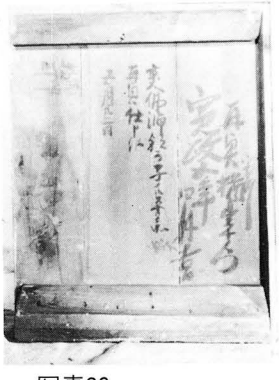


写真39
銘　文(平等王台座)

十六善神(昌伝庵蔵)

写真40

写真41

写真42

写真43

写真44

写真45

写真46

写真47

写真48

写真49

焔摩十王(清浄光院蔵)

写真50

写真51

写真52

写真53

写真54

写真55

写真56

写真57

写真58

写真59

6. 仙台市指定文化財候補物件調査報告 I

仙台市教育委員会では、諮問機関である仙台市文化財保護委員会の中に仙台市指定文化財候補物件調査小委員会を構成し、指定の価値がありながら現在のところ指定にまで至っていない物件について近い将来指定文化財としていくための協議を行なっている。ところで、その協議に先立ち、指定候補物件についての資料の作成を目的とし、その候補物件の調査を同委員会委員の先生方に受託することにした。本年は、その初年度に当り、建築部門から2件を佐藤巧同委員会副委員長に、彫刻部門から4件を故亀田孜同委員会委員に調査を委託した。なお、彫刻部門については、受託者亀田孜委員が昭和57年12月5日に御逝去されたため、亀田委員から提出された報告を基に、仙台市博物館学芸室長浜田直嗣氏の指導のもとで、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係主事渡辺洋一が編集したものである。

I. 建　築　部　門

佐　藤　巧

(1) 大梅寺庫裡

最近新築された本堂を中心にして、上手に座禅堂、開山堂、下手に庫裡、観音堂、そして旧郷六御殿遺構の書院がある。

大梅寺はもと祥岩寺と言われ、雲居禅師の座禅堂が基である。元禄年間大亀和尚入寺するとともに寺域、堂舎を整備し、名を大梅寺と改めた。治家記録にも「御座ノ間ニ御出、大亀座元拝謁、綱木祥岩寺住職ノ御礼、入院以後瑞鹿霊亀山祥岩大梅寺ト號スヘキ旨命アリ、御手書ヲ賜リ且偈ヲ賜フ」(元禄5・12・5)とある。このあと藩主綱村は大梅寺を訪れ、本尊を拝礼し、「大亀座元入院初テ入セラルニ就テ十帖一本献上拝謁、重テ住持召出サレ寺領加増十貫文ノ高ニ成賜ル、且雲居禅師ノ塔所へ玄米五石寄附之……展待長沼下野」(元禄5・12・8)とある。この時の建物の具体名については不詳である。

「仙府神社仏閣図集」(梅津幸次郎)によれば方丈(この上手に上段の記入あり)を中心にして上手に廊下によって仏殿が接続し、仏殿の背後に開山堂が描かれ、また方丈の向って左手、即ち下手に庫裡が方丈に対して鉤の手に配され、両者は廊下で繋がれている。

明治初年の大梅寺署図(大梅寺要書綴のうち)では竪17間、横11間、坪数3,417坪の境内に、方丈(11間×9間)、庫裡(9間×5間半)、仏殿(3間半×3間)、開山堂(3間×3間)等を記していて、主要堂舎名とその相関位置において差が認められない。

享保の頃より具体的な建物名として中門、方丈、御茶屋、御休息所、開山搭などの名も見え、また寛延の忠山公の御成りの時も客殿、開山堂などの名が見えており、後述の如く庫裡の存在

も元禄13年には確かであり、従ってさきの図に示す体裁はほぼ元禄の頃より具わっていたとみられる。

本堂は昭和51年，旧位置に復興再建された。庫裡はしばしば改修，修覆、移動され，ほぼ旧位置に復したが、座敷と台所の関係が逆、即ち向きが逆になった。庫裡の創建は元禄13年（1700）で、元禄庚辰八月八日、搭主大亀葉誌焉、大工星長兵衛製の梁銘札が遺っている。その後腐朽し、文政４年（1821）に修理された。この時の上梁賀文によると「桁行九間、梁間四間半、北椽開クコト六尺、兼テ廊架ニ擬シ、以テ往来ニ通ズ、寝室大殿ト香積ノ間ニ結構ス」とある。

現在の庫裡は桁行９間半、梁間５間、屋根寄棟、茅葺。上屋、即ち扠首の梁間は４間で中央を太い中引（うし梁）が通る。台所境のところでは中引を更に受け梁で挟んで二重になる。畳敷の部分は殿司寮、副司寮、そして二室にまたがる広い食堂から成り、他の板の間部は典座寮、台所である。もとの間取りは復元図でみるように土間、台所を除くと、広間型３間取りの、一般民家の古式と異らないのも興味を引く。中引が上屋梁（扠首梁）の真中を通り、前後の上屋柱がこれを中心に対称的に配される単純な架構法を示している。

軒の背も高く、両妻側には二階を設けており、とくに台所部分の三方を「せがい」造にし、台所入口に舟肘木の意匠を用いるなど、やや寺院的手法もみられる。台所の位置は現在とは逆で、寺境へ入る時にまず目に付くところで、ここに意匠的にも力を入れたものと思う。元禄頃の庫裡建築の姿を窺うに足りる遺構と言えよう。

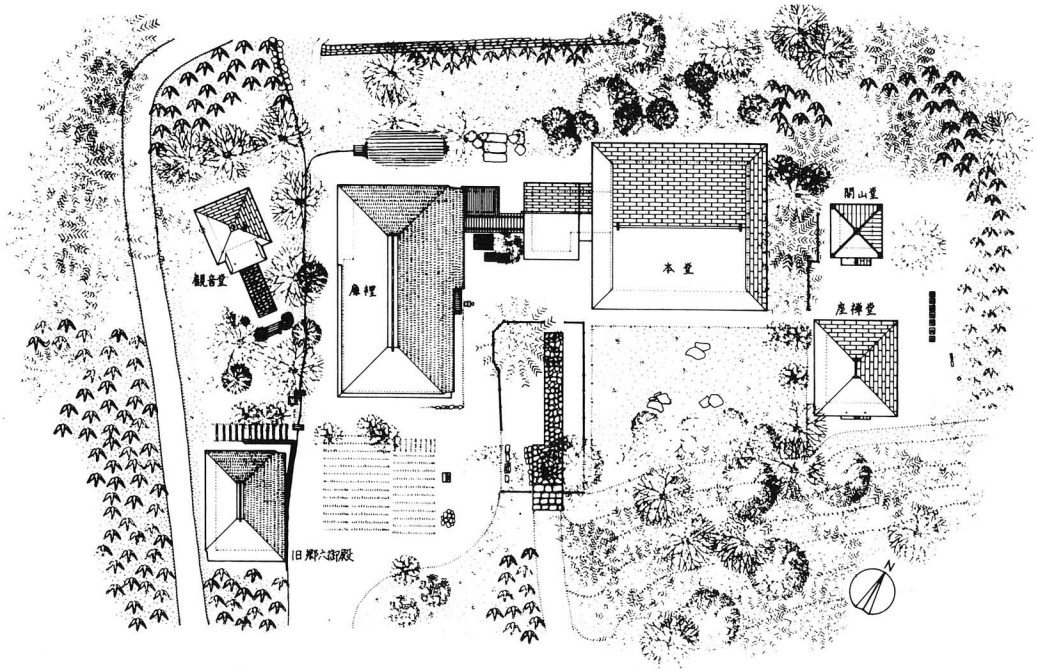


図１　大梅寺配置図

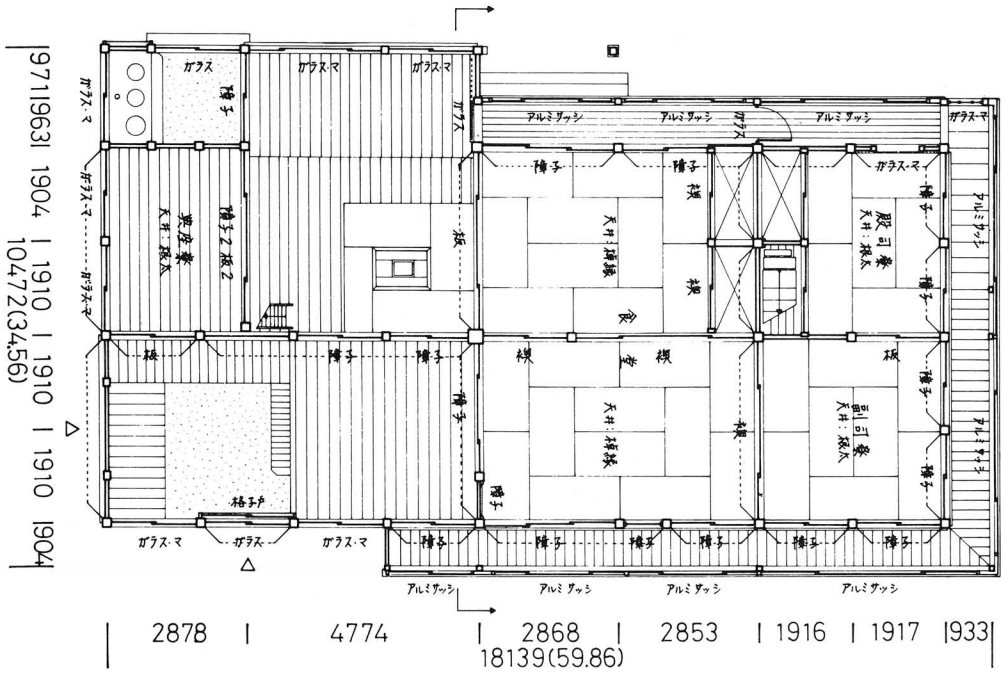


図2　平　面　図（現　　状）

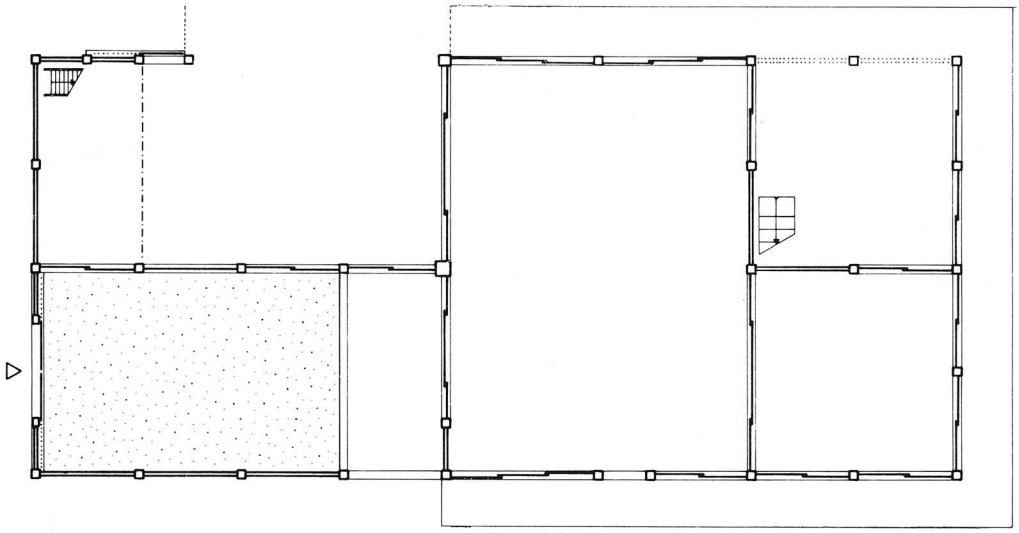


図3　平　面　図（復元予想図）

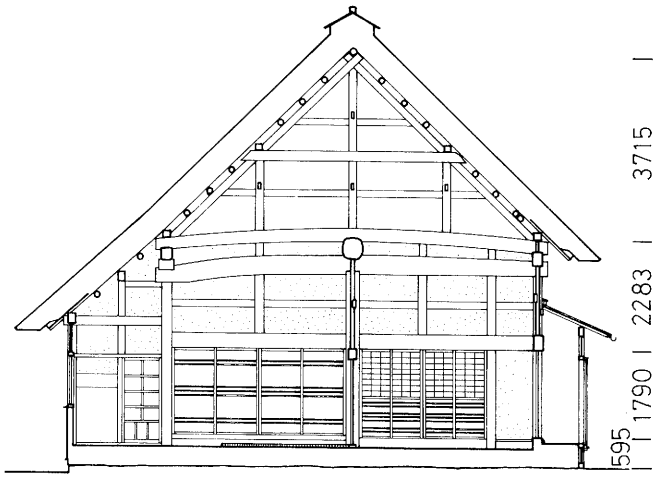


図4　断　面　図

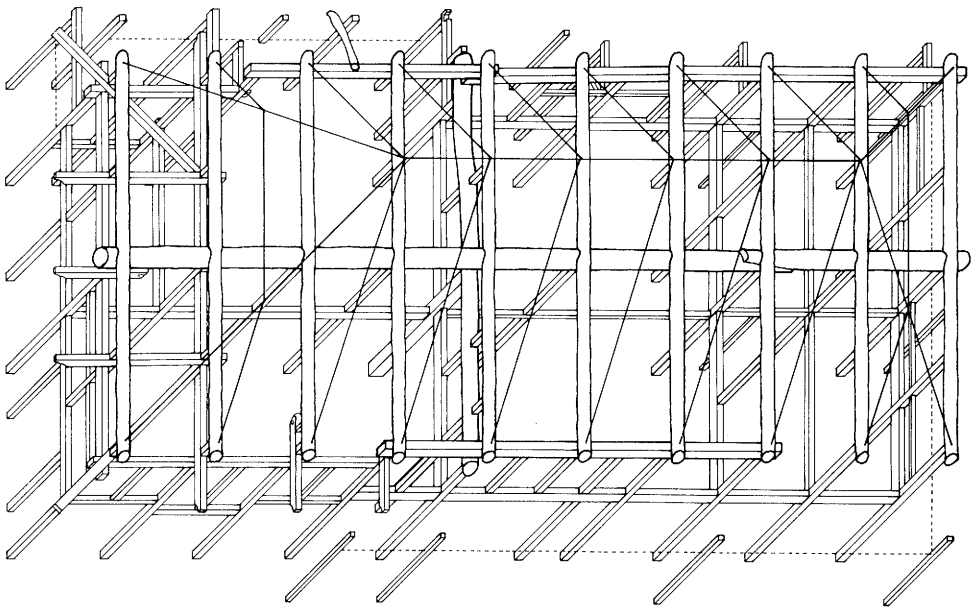


図5　構　造　図

写真 1　側面(西側)

写真 2　側面(東側)

写真 3　玄関(現在)

写真４　軒廻り

写真５　玄関(元来)

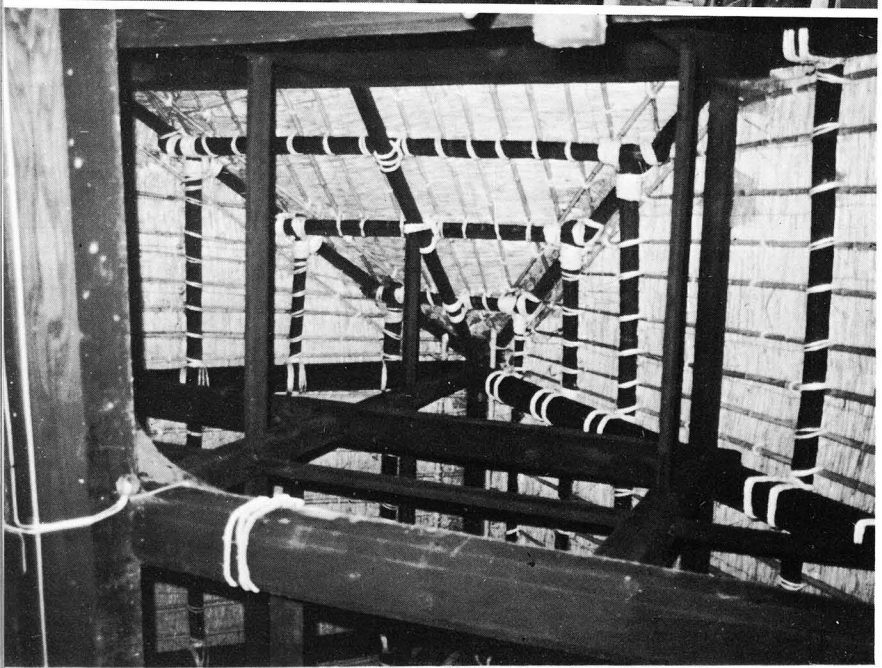


写真６　天　井

(2) 愛宕山（向山）虚空蔵堂

封内風土記によれば、別当大満寺及び当虚空蔵堂、千体仏ともにもと仙台城地にあった。中古は荒廃して無住となり、千体仏も多く散失した。天正元年（1573）に到り、龍川院３世の量山和尚の時代に虚空蔵堂を再築し、大満寺を再興した。慶長初年、伊達政宗が仙台城を経営するに当たり、経ヶ峯の地に移し、虚空蔵堂、拝殿、鐘楼、および寺を建て、36石余の土地を寄付されたという。万治２年(1659)，経ヶ峯の虚空蔵堂の地に忠宗廟を建築するに伴い、再び虚空蔵堂と別当大満寺を愛宕山とその西辺とに遷した。同年中に本堂、長床、鐘楼、大満寺の造営が成った。総奉行、普請奉行は感仙殿建立の藩役人が同様に努めたことが治家記録に見える。このことからすれば、虚空蔵堂の建築年代は万治２年と考えられよう。実は愛宕山に移る直前、経ヶ峯においてこの虚空蔵堂は再興されている。

仙臺ニ於テ、虚空蔵堂再興成就ニ就テ、入仏供養アリ、警固伊藤三右衛門輔氏仰付ラル。別當大満寺盛達和尚、去ル三月再興ノ為メ勧進不足ノ所、金子十兩御合力ノ願ヲ申上ラル。山口内記ヲ以テ金子十兩賜フト云云（伊達治家記録、慶安３・７・３）

慶安３年（1650）に再興、９年足らずで再び移すとすれば、全くの新築と言うより、あるいは移築に近い形ではなかったかとも思われる。万治の建築とも、慶安の建築とも見ることが可能であろう。

ほぼ南面して建つ桁行３間、梁間３間、宝形造、桟瓦葺（もと何葺なるや不詳）、露盤、伏鉢、宝珠を載せる。四方に高欄付縁側を巡らす。前面１間に向拝、向拝柱との繋ぎに海老虹梁を用いない。主屋前面中央間はもと双折桟唐戸、左、右の間は引違の舞良戸。軸部は円柱に台輪、頭貫、内法長押、腰長押、切目長押、板壁の制。軒は二軒繁垂木、斗栱は出組で軒支輪を具える。中備に彫刻なしの透し蟇股を配する。向拝の虹梁木鼻の形状はやや抽象化された象頭となり、特徴がある。虹梁中央に蟇股を置き、左右に薄肉彫りの手挟を持つ。肘木の湾曲線、台輪、円柱の粽、頭貫絵様など細部に禅宗様的手法が濃い。簡素ながら総体に江戸初期の堅実な手法が認められ、外観にも安定観がある。

内部は中央において前後に二分され、中央に円柱２本、左・右の側柱に相当する位置に半円柱が立ち、内陣と外陣とに分離される。この位置に鴨居、敷居とも２本溝が遺るので、格子の引き戸が入れてあったものと思われる。内、外陣ともに格天井。柱および壁は杉材、柱のみ透漆塗、他は素木。向拝部の柱、虹梁は欅材。

中央の奥、壁に接して箱型須弥壇上に宮殿形厨子が安置。厨子は１間四方。入母屋造、妻入柿葺。丸柱（粽あり）に台輪、頭貫、地長押、板壁で、中央に桟唐戸を吊る。二軒繁垂木、隅は出三つ斗。中備に蟇股を配する。

妻飾は虹梁、大瓶束。拝みに蕨懸魚。柱、板壁、小壁、桟唐戸桟、地長押、須弥壇および軒桁

の地となるとことを黒漆塗とし、桟唐戸の綿板、軒桁、台輪、長押、頭貫、斗栱、蟇股、垂木などには胡粉下地の上に極彩色を施し、円柱や破風板には飾金具を打ち、大瓶束を金泥塗にするなど、燦然たる装飾性に富む。描く文様の線も美しく、蟇股、肘木、虹梁、大瓶束の形、木鼻の姿も良い。厨子後背部の、本堂壁との取り付け状況からみても不自然で、本堂と同時期の、一体の建築とは認め難い。様式上からみて、本堂建築より一段と古式であり、桃山時代様式手法の強い秀作である。

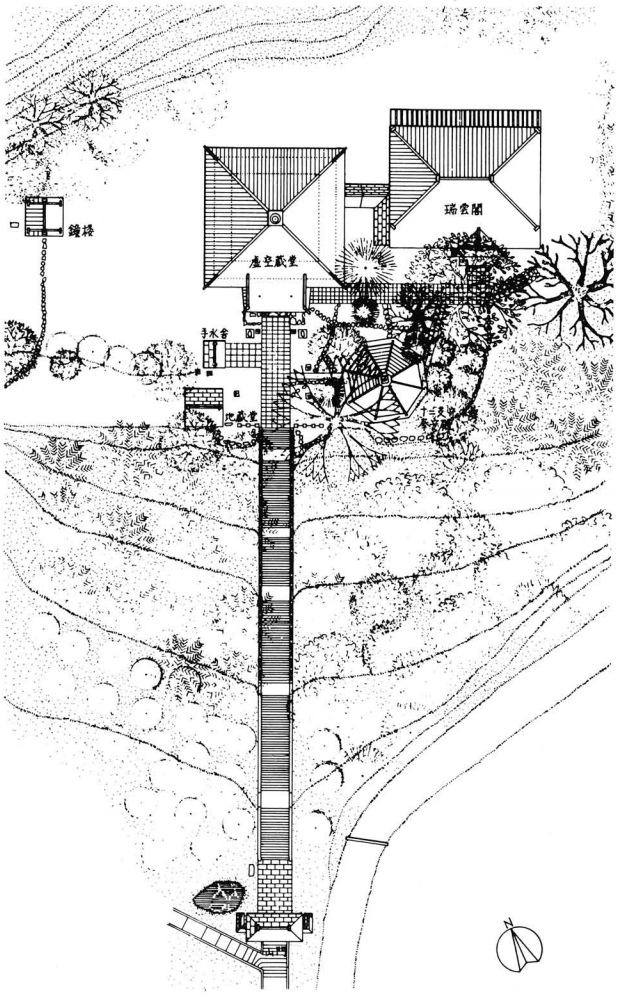


図6　配　置　図

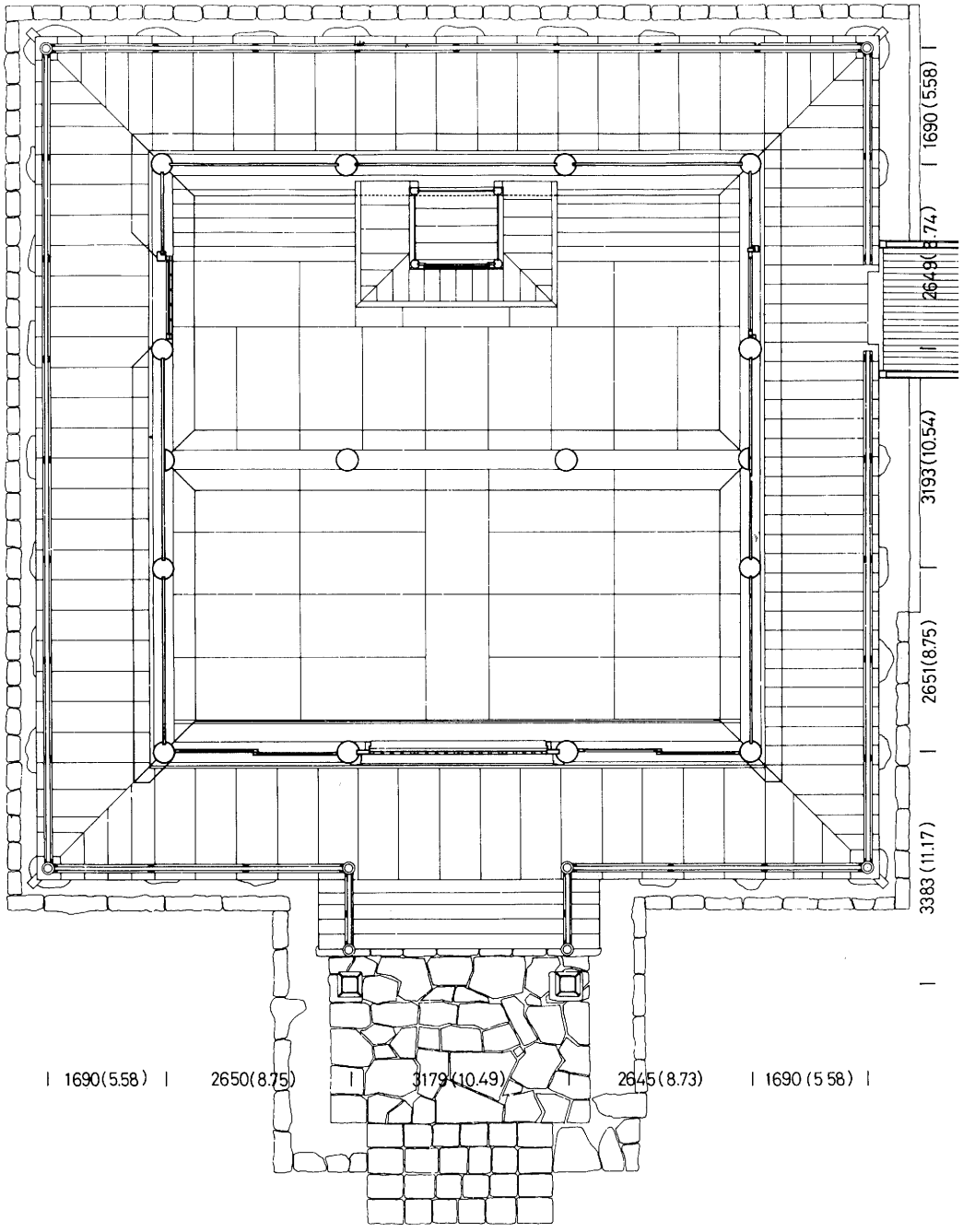

1690(5.58)
2648(8.74)
3193(10.54)
2651(8.75)
3383(11.17)
1690(5.58)
2650(8.75)
3179(10.49)
2645(8.73)
1690(5.58)

図7　平　面　図

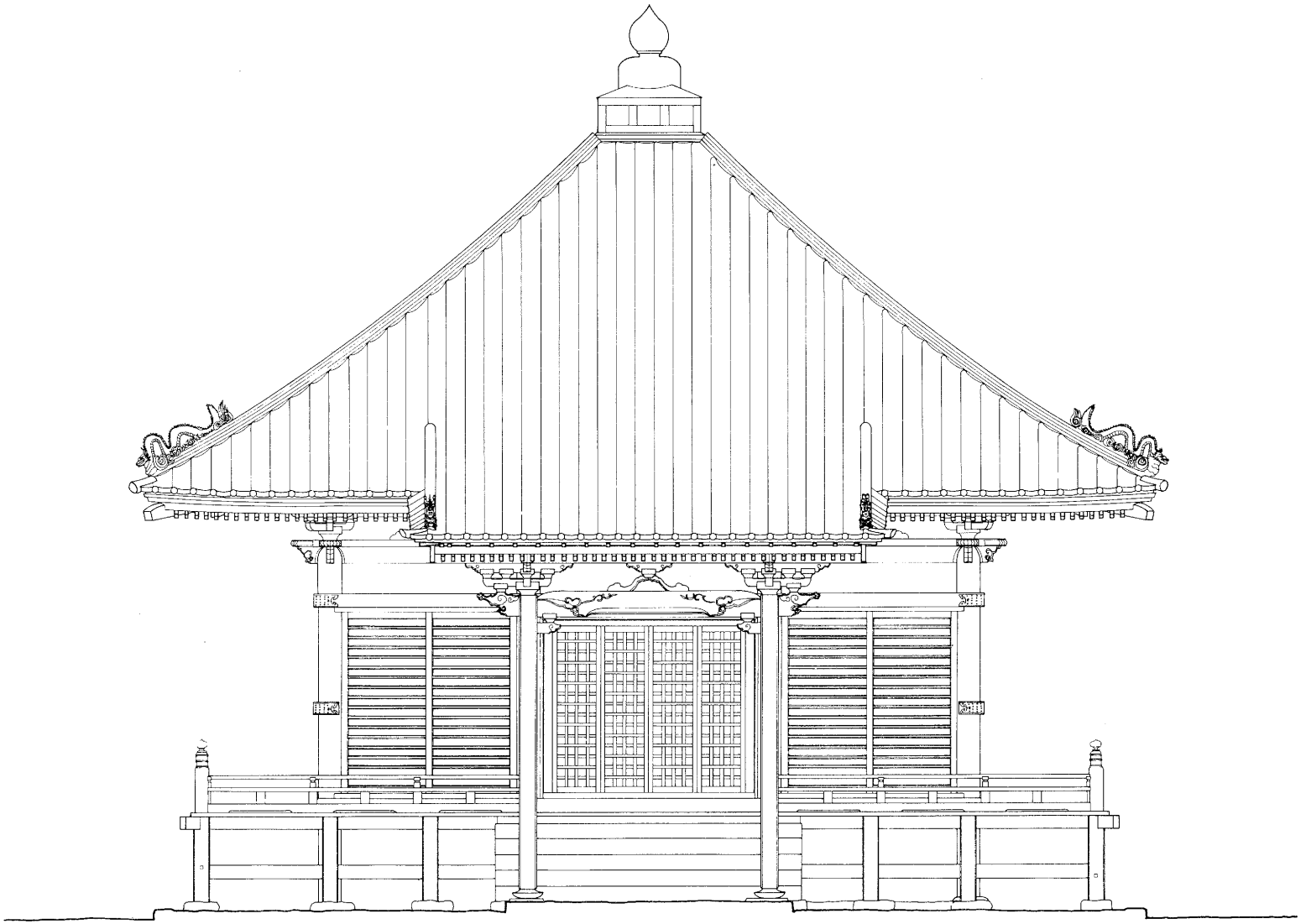


図8　正　面　図

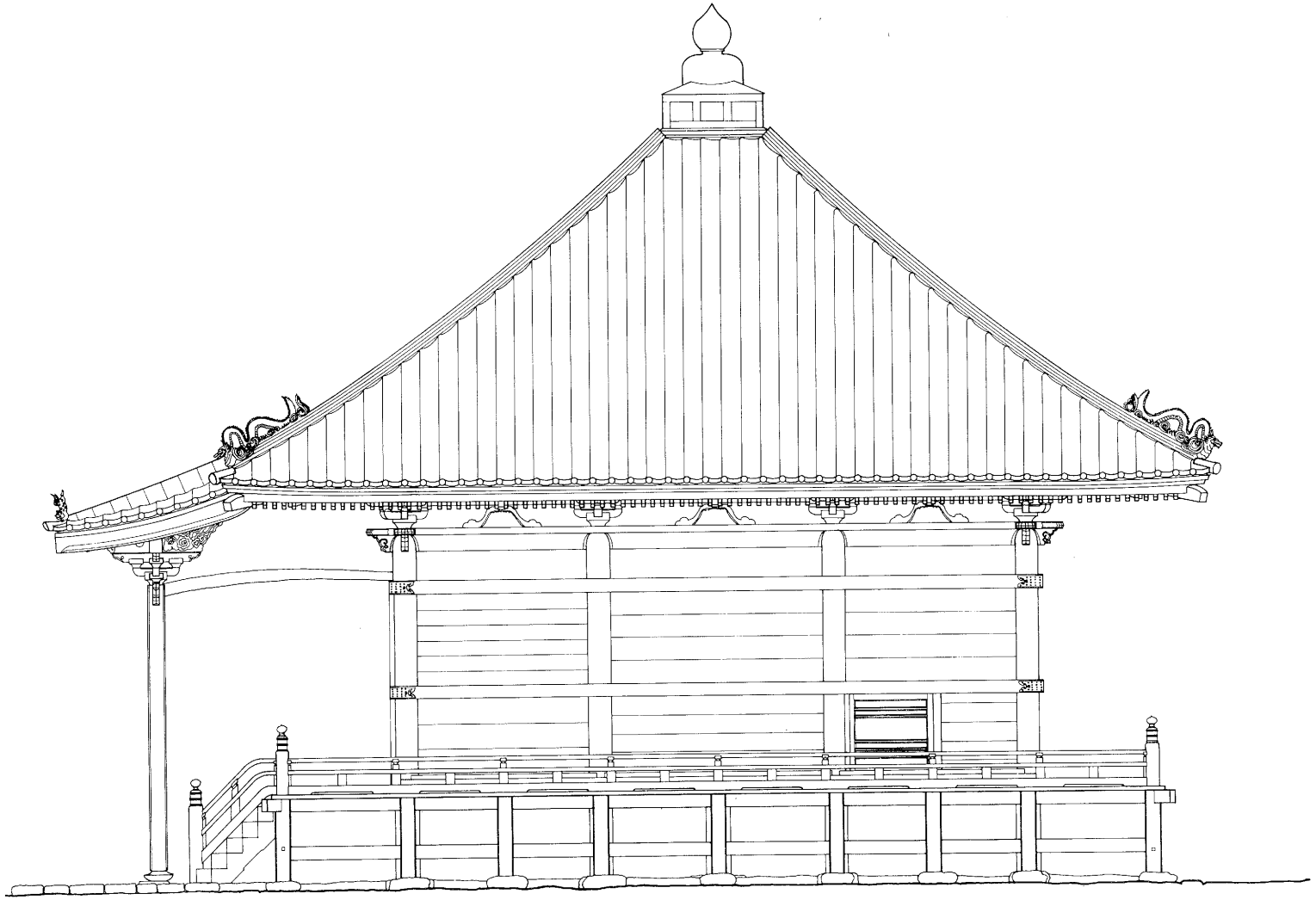


図9　側　面　図

図10 断面図

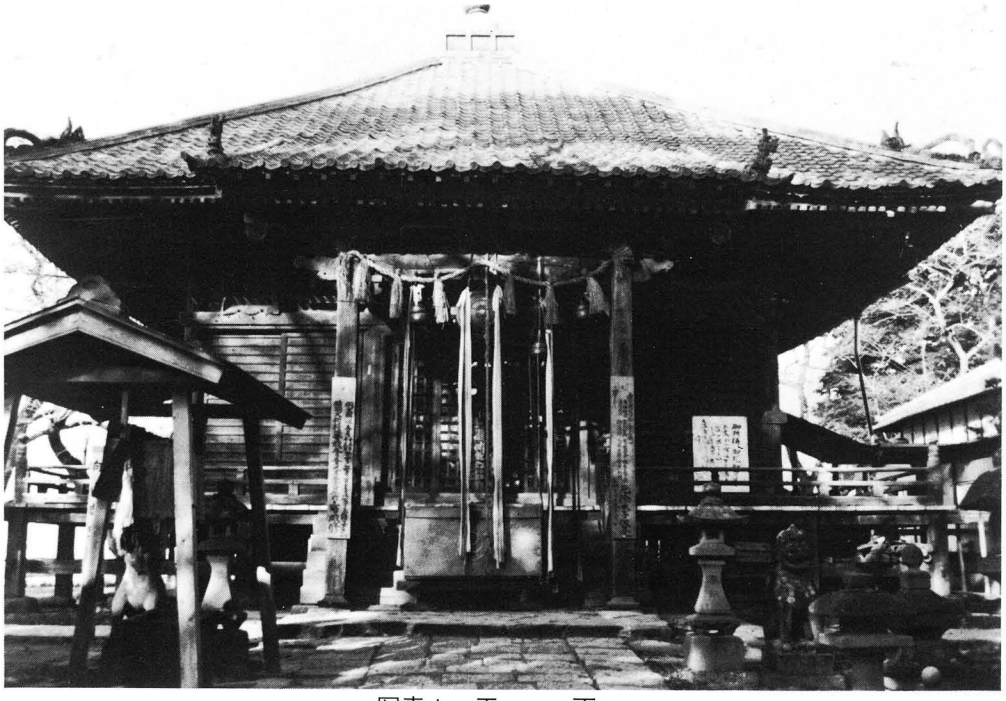


写真1　正　　面

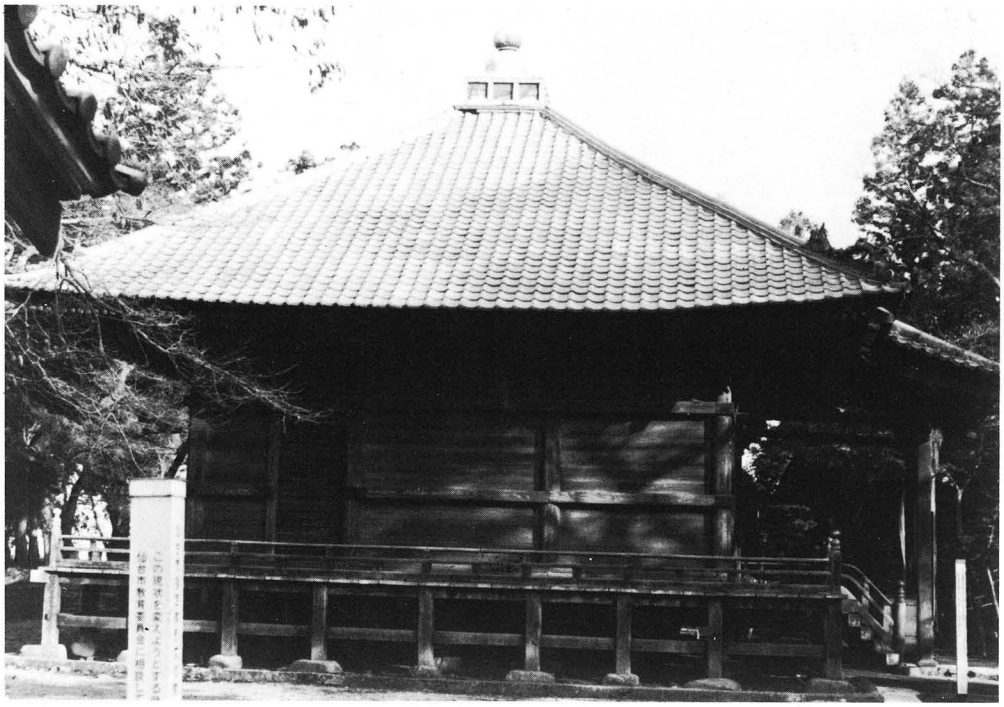


写真2　側　　面

写真３　向　拝

写真４　木　鼻

写真５　厨　子

II 彫　刻　部　門

亀田　孜

(1) 聖観世音菩薩立像　一軀

所有者：仙台市新寺三丁目５－３

時宗　法王山阿弥陀寺

代表役員　河野正俊

材　質：檜

時　代：鎌倉時代

作　者：春日作（寺伝）

法　寸：像高　85.1cm　胸厚　11.5cm

髪際下　73.8cm　胴長　12.5cm

白毫下　73.0cm　肩張　21.0cm

頭長　20.9cm　肘張　26.3cm

面長　8.9cm　腰張　19.9cm

面巾　10.5cm　膝張　18.5cm

面奥　11.5cm

〈形　状〉

檜材寄木造木造立像で、元来玉眼入であったものを思われるが現在は失われている。

全身漆地で軀部が金泥、衲衣部分が金箔を施していたと思われるが、現在は軀部の金泥はほとんどとんでいる。

像容は左手は拳を立てて蓮華（未開蓮）をとり、右手は掌を見せて垂下させ、右足をこころもち折って左足に重心を置く姿勢をとっている。頭部は前後で矧いであり鎹が露出し、天冠の前頭部の陰に小穴があったものと推測される。顔面は漆を塗り重ねた跡があり、口元など彫り口が埋れている。三道も見えなくなっている。目の部分はまぶたにあたる部分を矩形に矧ぎ出した跡があり、このため像容が著しく損なわれた感すらある。

〈由緒・伝承〉

同寺は宗祖一遍上人の東北巡錫の砌、福島県伊達郡梁川に於て伊達蔵人政依（伊達家四世）が上人に帰依して建立されたといわれ、伊達家と共に移動し、寛永21年仙台藩二代藩主伊達忠宗（十八世）の時現在地へ移った。

当像は同寺三十四代呑快和尚（江戸時代中期）の頃、当時低地であったため常に水を湛えて湿地の如くあった境内地で、たまたまその波の上に観音の姿が浮映したため、その水底を捜し

たところ発見されたのがこの像であるといわれた所から俗称「影沼観音」と称する。享保元年に同像のために堂宇を建て奉安し、仙台三十三番札所観音の第十七番札所となっている。現在は観音堂が腐朽したため本堂内に安置してある。

〈資　料〉

『封内風土記』巻Ⅰ　府城

「観音堂三十。……（中略）……其十五。在八塚阿弥陀寺。本尊正観音。春日作。不詳何時創建。伝云。昔時此辺地卑。東海潮湛如湖。観音浮影於波上。故今称之。日影沼観音。仙台順札三十三所。第十五番札所也。一説為第十七番

一説為第十七番

〈所　見〉

様式的には神奈川県浄楽寺所蔵の阿弥陀三尊像（運慶作：国指定重文）の脇侍観音に類似しており、同像も元来は慶派の流れをくむ阿弥陀三尊の脇侍仏であった可能性が強い。

その製作年代については、像容の特徴から見て鎌倉時代の作と考えられるが、髪部分について見ると前代の藤原期の特徴も有す。

像全体は少なくとも二度（一度は江戸時代、もう一度はそれ以前）以上の修復がなされ、足ほぞ部分も後補のものであり、全体が厚ぼったく漆膜がおかれ当初の面影がうかがいたい所もあるが、仙台市内では数少ない鎌倉時代の作仏であるというところから価値は高い。

調査日：昭和54年10月22日
　　昭和57年10月18日

調査員：亀田　　渡辺・岡崎

写真 1

写真 2

写真 3

写真 4

写真 5

(2) 伝安国上人祖師像　　一軀

所有者：仙台市土樋一丁目11－16

時宗　広沢山真福寺

材　質：檜材

時　代：南北朝～室町初頭

作　者：不詳

法　寸：

像高	80.7cm	肘張	53.0cm
頭長	24.4cm	腰奥	55.0cm
面奥	55.0cm	膝張	64.5cm
面幅	14.7cm	膝高(左)	14.2cm
耳張	18.2cm	袖張	81.1cm

〈形状〉

檜材寄木造木造坐像で、像は大きく頭部と軀部とに分けられる。頭部は前後二材で顔は玉眼入のひきしまった理知的な面立をしている。軀部は前後二材、肩先は縦に一材に三角材を寄せ、肘先一材で手を差し込む、また脚部は横一材と比較的単純な木寄法を用いている。体内はくりぬかれて空洞となっているものの木部の厚さが５cm余と比較的厚く、銘文らしいものはどこにも見あたらない。

総体の彩色は布貼の上に漆が塗られていたと思われるが現在は剝落が目立つ。

手は合掌し、足は禅をくんだ形となり、厚手の袂衣のひだは独得のやわらか味を有す。

〈由緒・伝承〉

当寺は元来鎌倉末期に登米郡に寄宿した安国上人が創建したといわれ、伊達政宗の仙台開府後仙台に移ったものといい、現在は同寺境内の安国堂内の家形厨子（江戸中期：元文元年の銘あり）内に納められている。

しかしながら、寺が数度にわたり火災にあっていることから、現存の厨子が作られた元文元年以降は同寺に安置されたことは明らかであるもののそれ以前については不詳の点が多い。

〈資料〉

『厨子裏銘文』

元文元　十二月三日

奉寄進

　安圀上人御厨子

廣澤山三十七世

　其阿元水欽誌

施主　河原町　白坂屋善十郎
北目町　金子長左衛門
同　町　田中屋権兵衛
同　町　吉田屋門十郎
柳　町　大藤屋所左エ門
同　町　黒田屋八郎右エ門
同　町　境屋忠兵衛
同　町　境屋彦十郎
大町二丁目　土屋與兵衛
同　町　鈴木屋八右エ門
大町一丁目　山田屋久兵衛
立　町　山田屋仁右エ門
大町二丁目　山田屋伊兵衛
同　一丁目　山田屋六兵衛
元柳町　槌屋産右エ門
同　町　中屋孫七郎
国分町　箱屋長十郎
原　町　渡辺源右エ門
田町指物師　渡辺利兵衛
荒町塗師　渡辺清之丞
柳町金物師　渡辺助十郎
北目町　菊地孫六
橘屋市兵衛
河原町　白坂屋七郎兵衛
大　町　山田屋忠兵衛
南材町　小村屋市　衛門

〈所見〉

同像は、極めて写実的でありその彫技も順達で、衣文は的確に整理され各部ともまとめに難はない。その手がたい、重厚な作風は京都辺りの本格的な肖像彫刻と類を一にするものであり、また、材質が檜であるということを鑑みても中央の作であって、何時の頃か東北の地へ伝えられたとも考えられ得る。

これが寺伝どおり安国上人の肖像であるとすると、上人は鎌倉後期に全国行脚しながら布教

に務めたとされることから、上人示寂後（建武三年没）あまり時間のたっていないうちの作と考えられ得るし、像容からみても中世（南北朝～室町初頭）の作と見ることが出来る。

但し、幾度かの火災によりやけこげ、面部左眼を中心として鼠害による欠損があり、保存状況は必ずしもよいとはいいがたい状況であったが、近年在仙の仏師林鳳雲氏により修理が成され、当初の姿に近い形にもどっている。

在仙の肖像彫刻としては現在のところ最古のものであり、またその真容を伝えるという点でも透逸で、骨格表現や微妙な肉付けなど個性的な風貌をつくりあげている点は他に見ることの出来ないものである。

調査日：昭和55年10月24日
　　昭和57年９月17日

調査員：亀田　　渡辺・岡崎
　　岩佐（東北大東日美助手）
　　他学生３名

写真 1

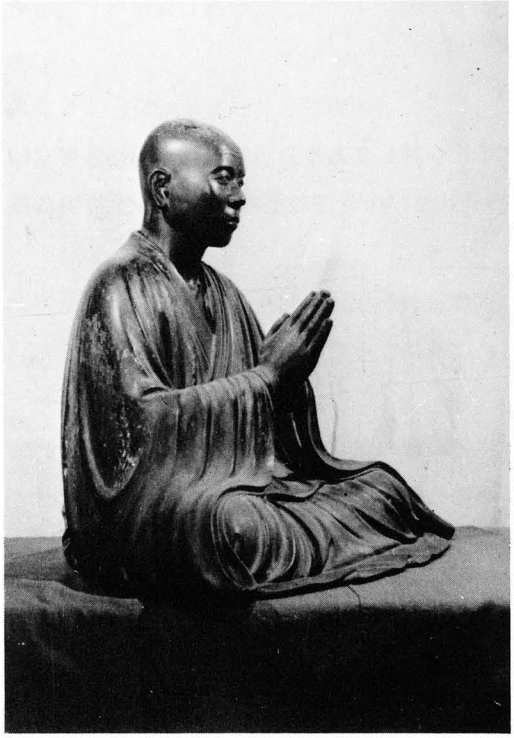


写真 2

写真 3

(3) 釈迦如来坐像（胎内仏含）

所有者：仙台市新寺四丁目７－６

曹洞宗　森城山大林寺

代表役員　田村信孝

材　質：檜材

時　代：江戸時代（軀内墨書銘札に寛保元年の作とある）

作　者：不詳

法　寸：像高　45.4cm　肩張　17.2cm

面幅　5.7cm　胸厚　10.0cm

面奥　8.7cm　膝張　31.0cm

面長　5.0cm　膝奥　11.7cm

頭長　12.0cm　光背高　82.0cm

（胎内仏）

総高　16.2cm　面奥　2.0cm

像高　6.9cm　肩張　3.6cm

頭長　2.4cm　肘張　4.9cm

面長　2.0cm　光背高　9.2cm

面幅　1.8cm　台座高　6.2cm

〈形状〉

檜材寄木造玉眼入の坐像で、全身朱漆塗の上に金箔が押してある。手印は禅定相の法界定印を結び、墨書銘で作仏の由緒書がある。（胎内墨書銘札及び像背面の墨書銘）なお、胎内には、弘法大師作と称する胎内仏が納められている。

胎内仏は、施無畏・与願印を結ぶ小金銅仏で、同像は、銅板金を切り透した唐草文透彫の光背に木造彩色の台座をつけ木像の底抜に装置し嵌めこみになっている。

〈由緒・伝承〉

同像の墨書銘によると、大林寺七世三列和尚が住持の時の寛文13年に肴町の佐藤平兵衛が賊難をおそれ、弘法大師作といわれる小金銅仏を新造の仏像の胎内に納めたが、その像が粗悪であったため、寛保元年に長沼氏がまた新たに仏像を作りその中に納め直し、同寺の本尊とした。

〈資料〉

『木造背面墨書銘』

弘法大師案作御長壱寸八分之釋迦像

□□置

寛保元　歳　八月初二日

當寺十二世大巖　誌焉

当山甘七卉

禪徹信孝代修復

昭和四拾五年参月吉日

『胎内墨書銘札』

（表）寛文十三　年當寺七世三列和尚現住之時仙臺肴町佐藤平兵衛懼於賊難篭置千新彿其新彿作以兼荒有長沼氏難刻之新彿江奉篭者也

豈寛保元　年八月初二日

（裏）弘法大師棠作　壱寸八分釋迦牟尼彿也

森城山大林寺十二世大巖融誌焉

〈所見〉

江戸時代の作であるとはいえ、像の出来ばえがよく、金銅小仏（弘法大師実作：寺伝）の胎内仏を有すること、又墨書銘により製作年代・由緒などがはっきりしており、その時代の基準作としての価値は高い。

調査日：昭和53年３月（寺の要請）

昭和55年10月23日

調査員：亀田　　渡辺・岡崎

写真 1

写真 2

写真 3

写真 4

(4) 大元帥明王立像　　一軀

所有者：仙台市八幡四丁目６－１

大崎八幡神社

代表役員　小野目雅一

材　質：檜材　赤漆（丹褐色）塗彩色

※儀軌は身黒青色（覚禅鈔第九十大元法下）

時　代：江戸時代（厨子扉の墨書銘によると「享保己亥之春……黯眼加持畢」とある）

作　者：江戸存在の仏師と思われる。

法　寸：像高　65.0cm　　胸張　18.0cm

面巾　12.0cm　　胸奥　8.0cm

面奥　10.5cm　　腕張　37.0cm（左右第二手間）

面長　18.2cm　　肘張　18.0cm

〈形　状〉

檜材寄木造五面八臂、二邪鬼を踏む立像（小栗栖本）最上頭には赤龍の纏髻が施してある炎炎髪で、全身には蛇が懸けてある。

八臂は左上手は輪、次手は弓を執り、次左右二手は手前合掌し供養印を作り、次下手には索を執る。右上手は跋折羅、次手に棒を執り次手は印を作り、次下手は手刀を執る。また腕臂上は皆蛇が纏っている。これらの特物のうち棒、槃及び剣の柄は残っているがその他は欠けている。又像脚は二薬叉を踏んでいる。

〈由来・伝承〉

この像は、仙台藩五代藩主伊達吉村が武運長久・子孫繁栄を祈念して同社内に建立した大元堂の本尊（御神体）として作仏させ、江戸の真福寺で開眼したものという。

当初の堂宇は腐朽したため昭和45年に取毀され、同像は暫くの間社務所内に保存されていたが昭和55年に新堂が建立され現在は同堂内陣に安置されている。

〈資　料〉

銘文（透漆塗厨子の扉内側の墨書銘）

向って右

享保己亥之春仲春吉旦蒙　陸　大守吉村公之命於武都真福道場致鮎眼加持畢

向って左

前住山臺龍寶後江府真福沙門梅國堂泰音謹識（花押）

〈所　見〉

大元帥明王の図像には主なもの七種あるが、本像は小栗栖本（秋篠寺）常暁将来の像に依っ

て作られた比較的正当な像容であって、製作年代は江戸であるが銘文によりその由緒が明らかであることなどから価値は高い。

典　拠：善無畏訳「阿託薄倶元師大将上仏陀尼経」修理儀軌巻中
　　梁代「阿託拘鬼神大将仏陀尼経」

調査日：昭和55年10月22日
　　昭和57年６月１日
調査員：亀田　　渡辺・岡崎

写真 1

写真 2

写真 3

写真 4

写真 5

III. 彙　　報

1. 外部協力活動

文化財保護思想の啓蒙普及につき、仙台市内外よりの協力要請に基づき、下記の講演等を実施した。

年　月　日	テ　ー　マ	対　　象	担　　当
57. 9. 22	仙台の原始古代	川平小学校社会学級	早坂春一
10. 15	仙台の古代史	上杉山通小学校社会学級	〃
10. 30	郷土史講座　岩切の中世史－岩切城－	岩切公民館	〃
11. 16	岩切地区の歴史散歩	岩切小学校社会学級	〃
57. 5. 25	仏像彫刻の見方について	仙台歴訪会	渡辺洋一
10. 10	おくのほそみち散策の集い	仙台市歴史民俗資料館	〃
10. 19	仙台の文化財めぐり　　北山五山を訪ねて	仙台歴訪会	〃
12. 5	仏像彫刻の見方について	宮城県文化財友の会	〃
57. 10. 16・17	「郡山遺跡の成果について」	古代都市研究会	木村浩二
58. 2. 26・27	「郡山遺跡三ヶ年の成果について」	城柵官衛研討会	〃

2. 研修活動

文化財担当職員の実務の向上をはかるため、下記の研修に参加した。

日　時	内　　容	場　　所	担　　当
57. 5. 9 ～5.23	昭和57年度埋蔵文化財発掘調査技術者専門研修「集落遺跡調査課程」	奈良国立文化財研究所	渡部弘美
57. 5. 25	昭和57年度文化財保護管理事業に伴う宮城県文化財保護地区指導員並びに文化財担当者会議	東北歴史資料館	大沢隆夫
57. 6. 16 ～6. 17	市町村文化財担当者等研修会	〃	佐藤隆
57. 7. 1	市町村文化財担当者等研修会	〃	斎野裕彦
57. 7. 22 ～6. 17	市町村文化財担当者等研修会	〃	佐藤隆
57. 10. 19 ～11. 6	昭和57年度埋蔵文化財発掘調査技術者専門研修「環境考古課程」	奈良国立文化財研究所	佐藤洋
57. 10. 20	市町村文化財担当者研修講座	松島中央公民館	渡辺洋一
57. 11. 15 ～11. 19	昭和57年度文化財行政基礎講座	東京国立科学博物館	山口宏
57. 12. 7	宮城県史跡整備連絡協議会専門研修会	多賀城市役所	早坂春一

3. 仙台市内の指定文化財

仙台市内には、下記の指定文化財がある。

種　類	有形文化財								無形文化財	無形民俗文化財	史　跡	天然記念物	計
	建築	彫刻	絵画	書籍	工芸	考古資料	歴史資料	金石文					
国　宝	1	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3
国指定	3	1	—	—	6	5	1	—	—	—	5	3	24
宮城県指定	8	6	4	—	5	—	1	—	2	1	—	1	28
仙台市指定	2	1	4	1	3	—	5	4	—	—	3	2	25
計	14	8	8	3	14	5	7	4	2	1	8	6	80
	63												

4．寄贈図書

105の機関より264冊の図書が寄贈された。

5．仙台市文化財保護委員会委員名簿

	氏　名	専門分野	現　職	新再の別
委員長	加藤陸奥雄	動　物	宮城県立美術館長	再　任
副委員長	佐藤　巧	建　築	東北大学工学部教授	〃
委　員	浅野継男		仙台市議会議員	〃
〃	安倍郁二	工　芸	三島学園大学教授	〃
〃	伊東信雄	考　古	東北学院大学文学部教授	〃
〃	岩崎敏夫	民　俗	東北学院大学文学部教授	新　任
〃	上原昭一	絵画・彫刻	東北大学文学部教授	〃
〃	大橋広好	植　物	東北大学理学部教授	〃
〃	佐藤　明	絵　画	東北学院大学教養部教授	再　任
〃	芹沢長介	考　古	東北大学文学部教授	新　任
〃	高橋富雄	国　史	東北大学教養部教授	〃
〃	中川　高	刀　剣	宮城県刀剣登録審査員	再　任
〃	中川久夫	地質・地形	東北大学理学部助教授	新　任
〃	宮城正俊	陶磁器	(財)仙台市民ギャラリー理事長	再　任

6．仙台市教育委員会刊行書籍目録

1）文化財パンフレット

第1集　仙台のあゆみと文化財
第2集　埋もれた仙台の歴史
第3集　仙台市の古建築Ⅰ（明治以前）
第4集　仙台市の古建築Ⅱ（明治以後）
第5集　仙台市の古建築Ⅲ（失なわれた古建築）
第6集　仙台市仏像彫刻Ⅰ（如来記）
第7集　仙台市の仏像彫刻Ⅱ（菩薩記Ⅰ）

2）仙台市文化財調査報告書

第1集　天然記念物霊屋下セコイヤ化石林調査報告書（昭和39年4月）
第2集　仙台城（昭和42年3月）
第3集　仙台市燕沢善応寺横穴古墳群調査報告書（昭和43年3月）
第4集　史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年3月）
第5集　仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年8月）
第6集　仙台市荒巻五本松窯跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
第7集　仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年3月）
第8集　仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年5月）
第9集　仙台市根岸町宗禅寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年3月）
第10集　仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年3月）
第11集　史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年3月）
第12集　史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年3月）
第13集　南小泉遺跡－範囲確認調査報告書－（昭和53年3月）
第14集　栗遺跡発掘調査報告書（昭和54年3月）
第15集　史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年3月）

第16集　六反田遺跡発掘調査（第２・３次）のあらまし（昭和54年３月）
第17集　北屋敷遺跡（昭和54年３月）
第18集　枡江遺跡発掘調査報告書（昭和55年３月）
第19集　仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年３月）
第20集　史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年３月）
第21集　仙台市開発関係遺跡調査報告１（昭和53年３月）
第22集　経ヶ峯（昭和55年３月）
第23集　年報１（昭和55年３月）
第24集　今泉城発掘調査報告書（（昭和55年８月）
第25集　三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
第26集　史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年３月）
第27集　史跡陸奥国分寺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年３月）
第28集　年報２（昭和56年３月）
第29集　郡山遺跡Ⅰ－昭和55年度発掘調査概報－（昭和56年３月）
第30集　山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年３月）
第31集　仙台市開発関係遺跡調査報告Ⅱ（昭和56年３月）
第32集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第33集　山口遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第34集　六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）
第35集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第１次調査報告（昭和57年３月）
第36集　北前遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第37集　仙台平野の遺跡群Ⅰ－昭和56年度発掘調査報告書－（昭和57年３月）
第38集　郡山遺跡Ⅱ－昭和56年度発掘調査概報－（昭和57年３月）
第39集　燕沢遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第40集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ（昭和57年３月）
第41集　年報３（昭和57年３月）
第42集　郡山遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査－昭和57年３月）
第43集　栗遺跡（昭和57年８月）
第44集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
第45集　茂庭－茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第46集　郡山遺跡Ⅲ－昭和57年度発掘調査概要－（昭和58年３月）
第47集　仙台平野の遺跡群Ⅱ－昭和57年度発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第48集　史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報（昭和58年３月）
第49集　仙台市文化財分布調査報告Ⅰ（昭和58年３月）
第50集　岩切畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第51集　仙台市文化財分布地図（昭和58年３月）
第52集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第２次調査報告－（昭和58年３月）
第53集　中田畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第54集　神明社窯跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第55集　南小泉遺跡－青葉女子学園移転新営工事地内調査報告－（昭和58年３月）
第56集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和58年３月）
第57集　年報４（昭和58年３月）

職　員　録

社会教育課
課　長　永野昌一
主　幹　早坂春一

文化財管理係
係　長　大沢隆夫
主　事　山口　宏
〃　渡辺洋一

文化財調査係
係長(兼)　早坂春一
教　諭　佐藤　隆
〃　渡辺忠彦
〃　佐藤　裕
〃　加藤正範
主　事　田中則和
主　事　結城慎一
〃　成瀬　茂
教　諭　青沼一民
主　事　柳沢みどり
〃　木村浩二
〃　篠原信彦
〃　佐藤　洋
主　事　金森安孝
〃　佐藤甲二
〃　吉岡恭平
〃　工藤哲司
〃　渡部弘美
〃　主浜光朗
〃　斎野裕彦
主　事　長島栄一
〃　荒井　格
派遣職員　高橋勝也
嘱　託　鈴木　実

仙台市文化財調査報告書第57集
昭和57年度
年　　報　　4
昭和58年3月
発行　仙台市教育委員会
仙台市国分町3－7－1
仙台市教育委員会社会教育課
印刷　株式会社 東北プリント
仙台市立町24—24　TEL 63—1166